

「教育DXを支える基盤的ツールの整備・活用事業」
（教育データ利活用の加速化事業）
実証研究報告書

2026年3月31日

目次

1. 長浜市_実証研究報告	p.3
2. 鹿児島市_実証研究報告	p.21
3. 山形県_実証研究報告	p.42

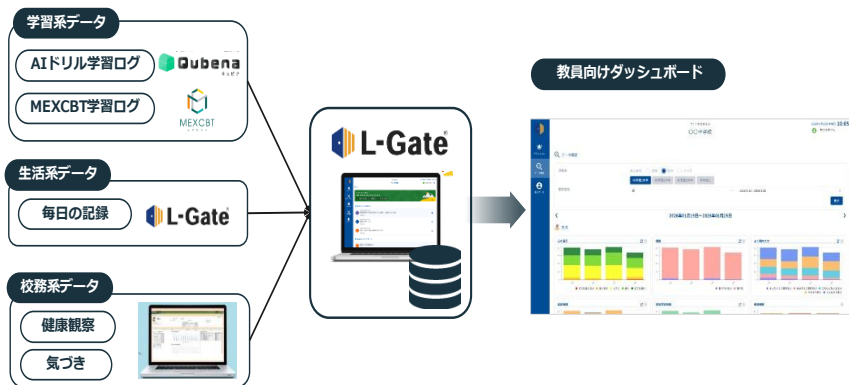
1. 長浜市_実証研究報告

実証研究の概要_滋賀県長浜市

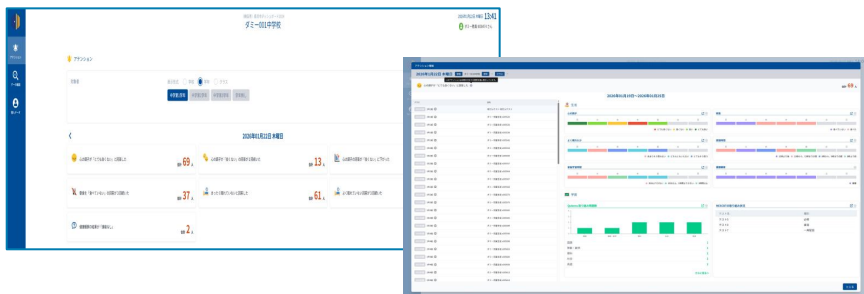
長浜市ではL-Gateに集約したデータを用いて注意・支援が必要な児童生徒を抽出する取組の中で、情報の反映速度を改善するなど、現場の声をくみ取りながら実証を進めました

構築システム概要

- 児童生徒の生活アンケート（心の調子・生活習慣等）は学習eポータル（L-Gate）で入力
- 健康観察や教師の気付きは校務支援システム（デジタル校務）、学習履歴はAIドリル（Qubena）やMEXCBTから取得
- これらのデータを同一IDで識別し、データ連携基盤上で統合・蓄積したうえで、ダッシュボードにおいて可視化



- 特に注意が必要な児童生徒やデータを自動的に抽出・表示する「アテンション」機能を実装



活用を促すシステム面/運用面の工夫

健康観察
情報の
反映速度
向上に向けた
入力プロセス
改善

検討課題・目的

- 従来、毎朝の健康観察を紙で記録し、後から校務支援システムへ入力していたため、事務負担が大きく登録遅れにもつながっていた
- 入力プロセスの改善により、可視化までのリードタイムを短縮することを目指した

工夫内容

- デジタル教務手帳を用いて教員がGIGA端末から健康観察情報を教室内で入力できる運用とし、アナログ作業を廃止

現場の不安を
解消する
事前準備

検討課題・目的

- 教員の負担感や心理的ハードルを軽減しつつ、関係者の理解・合意形成を進める

工夫内容

- 管理職、養護教諭、ICT担当者へ直接足を運び、実証の意図やスケジュール、教員の負担感について直接説明し対話
- 段階的な導入ステップ: 9月に教務手帳、10月にアンケート、11月に実証開始と、機能を1ヶ月ごとに順次開放し、操作に慣れるための「ゆとり」を確保した
- 各校の実態に即した研修: ダッシュボードや教務手帳の使い方を各校で実施し、導入時の心理的ハードルを下げる工夫をした

現場の声を
反映する
サポート体制

検討課題・目的

- 双方向のコミュニケーションと迅速な改善対応により、利用者の安心感と信頼性を高める

工夫内容

- 電話やメールで随時意見を受け付けるだけでなく、市教委からも定期的に連絡を入れ、双方向のコミュニケーションを維持した
- 学校を訪れ、先生方の「困り感」を直接把握。使い勝手に関する要望を聴取した
- 「色味の調整」「過去履歴の閲覧」等、現場の要望を事業者連携のもと実現した

(1) 事業概要

長浜市では、前年度からの継続実証自治体として、使いやすさ・見える化データの付加価値の向上に向け、構築したダッシュボードの改良に取り組みました

背景・目的

■実証の背景・課題

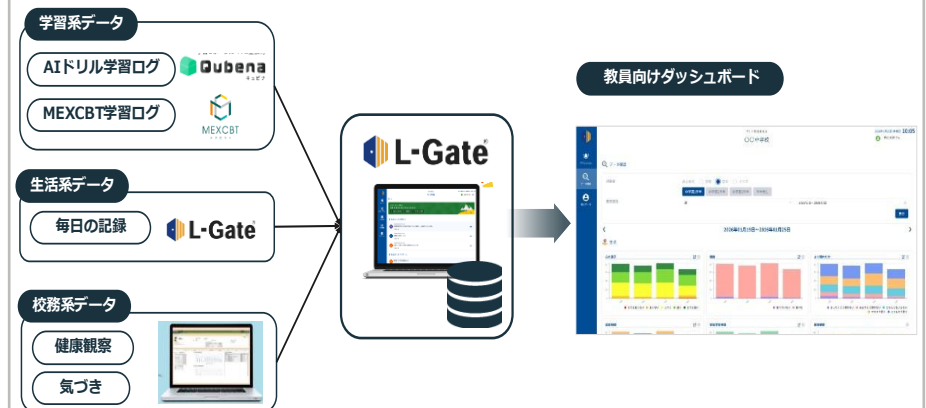
- 長浜市では、第3期長浜市教育振興基本計画（令和3年1月）において基本方針を「つながりあい、学び合い、豊かに生きる人づくりをめざす「ながはま」」とし、教育大綱において6つの基本目標を掲げ、その基本目標実現するために定めた13の基本的方向を示している。
- 13の基本的方向の中でも特に、「一人ひとりを大切に教育の推進」「確かな学力の育成」を実現するため、個別最適な学びを実現するAIドリルや、各種システムの導入を通じ、教育のDX化を推進してきた。行政全体でも、令和4年に長浜市DX推進戦略を公表し、DX化を通じた教育課題の解決を図ることを目指している。
- 一方、各種システムを通じ児童生徒のデータが収集・蓄積されつつあるものの、十分な活用までは至っておらず、令和7年度「長浜市教育行政方針」でも、教育データベースの活用により確かな学力の育成を図ることを重点施策としており、データ活用により様々な教育課題に対応することは政策上の喫緊の課題となっている。

■令和7年度実証の目的

- 上記背景・目的をふまえ、長浜市では、令和6年度文部科学省委託事業「教育DXを支える基盤的ツールの整備・活用事業」に参画し、教育データの利活用のためのデータ連携基盤を構築した。
- 今年度は、昨年度構築した環境を活用し、担任任せにせず、学校全体で子どもを見守り、支援を行う「チーム学校」としての組織的支援体制の確立を目的に、支援を要する児童生徒を効率的に抽出する仕組みの導入等に取り組むこととした。

構築システム概要

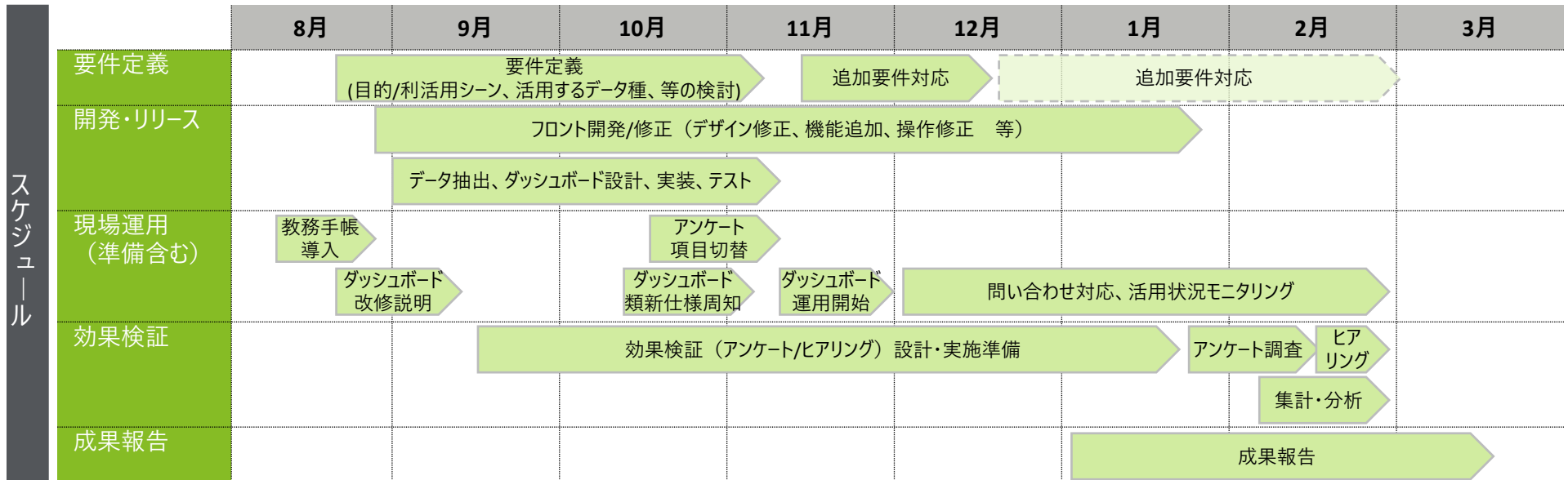
- 児童生徒の生活アンケート（心の調子・生活習慣等）は学習eポータル（L-Gate）で入力
- 健康観察や教師の気付きは校務支援システム（デジタル校務）、学習履歴はAIドリル（Qubena）やMEXCBTから取得
- これらのデータを同一IDで識別し、データ連携基盤上で統合・蓄積したうえで、ダッシュボードにおいて可視化



(1) 事業概要 実施体制・スケジュール

今年度の実証に際しては、市内3校を活用重点校に位置付け、日々のデータ入力からダッシュボードの利活用までの一連の取り組みと、効果検証を実施しました

	参画者	主な役割
実施体制	長浜市教育委員会 教育改革推進課 教育指導課	事業全体の統括、進捗管理、実証校との調整、効果検証の実施および成果の取りまとめ 各学校のダッシュボードの参照
	株式会社内田洋行	データ連携基盤およびダッシュボードの構築・改修、システム運用支援、その他プロジェクト管理上の支援
	中学校1校 小学校2校	生活・学習データの入力・活用、ダッシュボードの利用、効果検証への協力および現場課題のフィードバック



(2) 利活用対象データ項目

利活用対象データ項目、表示・集計方法については、教育委員会主導のもと、活用重点校や参画事業者との協議を経て決定されました

システム名	項目分類	項目名	内容	取得頻度
L-Gate	毎日の記録	心の状態	毎日取得する小アンケート。児童生徒の調子（心身の状態）を収集する。 一定の条件を満たす児童生徒を抽出表示（アテンション機能）する。	1時間に1回 8:40更新を追加
L-Gate	毎日の記録	朝食	毎日取得する小アンケート。朝食を食べたかどうか。 一定の条件を満たす児童生徒を抽出表示（アテンション機能）する。	1時間に1回 8:40更新を追加
L-Gate	毎日の記録	睡眠	毎日取得する小アンケート。十分に睡眠がとれたかを確認する。 一定の条件を満たす児童生徒を抽出表示（アテンション機能）する。	1時間に1回 8:40更新を追加
L-Gate	毎日の記録	就寝時間	毎日取得する小アンケート。何時に寝たかを確認する。	1時間に1回 8:40更新を追加
L-Gate	毎日の記録	家庭学習時間	毎日取得する小アンケート。家庭学習を行った時間を記載。	1時間に1回 8:40更新を追加
L-Gate	MEXCBT	MEXCBT	MEXCBTのテストに対して、誰が回答を実施したかの状況。	1時間に1回
デジタル校務	健康観察	健康観察	校務システムの健康観察機能。毎朝確認される体調等の確認した内容が反映される。 一定の条件を満たす児童生徒を抽出表示（アテンション機能）する。	3時間に1回
デジタル校務	気づき	気づき	校務システムの気づき機能。日常の中で教師が気づいた児童生徒に関する行動や注意を要する出来事などを登録する。	3時間に1回
Qubena	回答ログ	問題取組み状況	Qubenaの問題に対して、どの教科の問題に対して、誰が何問回答したかの状況。	1日1回

● データ項目定義を進める上での工夫・留意事項

昨年度実証を踏まえて、本年度は長浜市教育委員会主導のもと、活用重点校や参画事業者と協議し、生活面データを中心に活用対象項目を整理した。生活面のデータについては、支援を要する児童生徒を効率的に抽出するアテンション表示の条件設計を検討し、ダミーデータによる表示・集計ロジック検証などを実施して決定した。

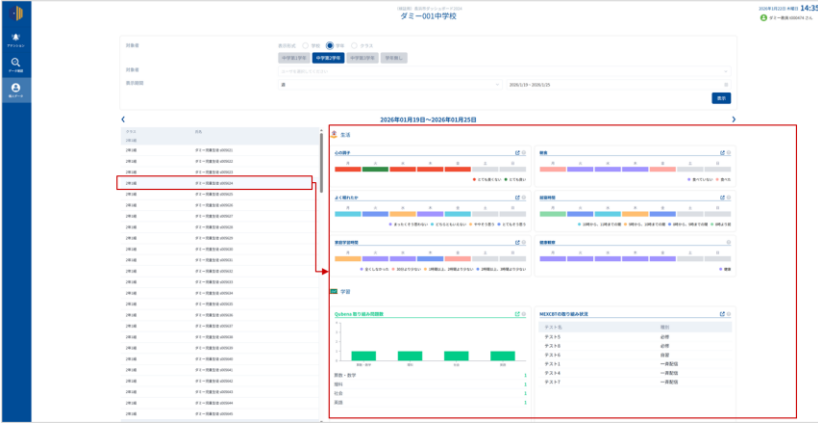

(3) 可視化システム・ツールにおける工夫 (1/4)

特に注意を要する児童生徒について、迅速な把握を可能とするため、生活アンケートの回答傾向や変化等に着目した「アテンション機能」を実装しました

タイトル	工夫内容	画面イメージ
<p>注意が必要な児童生徒を即時把握するアテンション機能の実装</p>	<p>(検討課題・目的)</p> <ul style="list-style-type: none">多数のデータがサマライズされた画面では、どの項目に着目すべきかが直感的に分かりづらく、ダッシュボード閲覧時の負担が大きいたとも、重要な変化を見逃す可能性があったそのため、特に注意が必要な児童生徒やデータを自動的に抽出・表示し、迅速な状況把握と判断を支援する仕組みの構築を目指した <p>(工夫内容)</p> <ul style="list-style-type: none">ダッシュボードで活用している各種データについて、どのような状態を「特に注意が必要」と判断するか検討を重ねた。単純に生活アンケートの5段階評価スコアが低い児童生徒を抽出するのではなく、「低いスコアが継続しているケース」や「スコアが急激に変動しているケース」など、変化や傾向にも着目した検知ロジックの設計を行った想定されるデータパターンを洗い出した上で、既存データを用いたシミュレーションを行い、検知精度や妥当性を検証して有効と判断されたパターンをダッシュボードのアテンション機能として実装したまた、検知されたデータについて該当児童生徒を迅速に把握できるよう一覧表示機能を設けた。一方で、個人情報保護の観点から、初期画面で直接氏名を表示するのではなく、ワンクリック操作を介して一覧を表示する設計とした	<p>▼アテンション画面</p>  <p>▼該当児童生徒の一覧表示画面</p> 

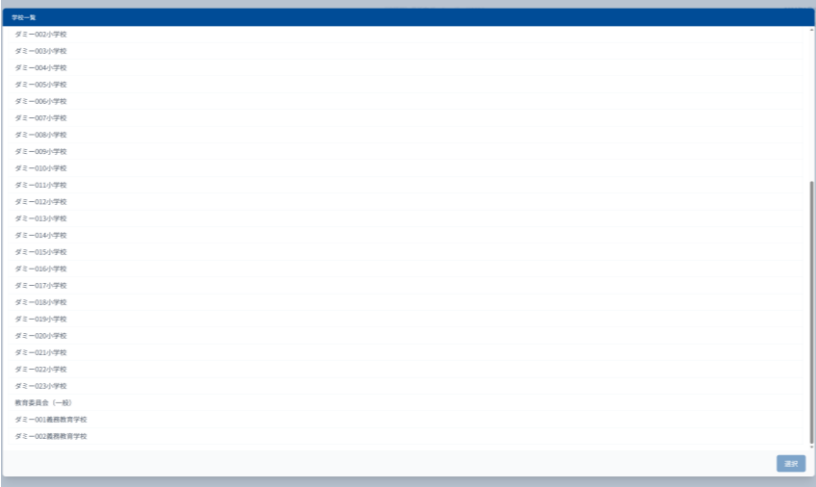
(3) 可視化システム・ツールにおける工夫 (2/4)

昨年度の実証研究・効果検証を通じて現場から寄せられたニーズをふまえ、ダッシュボードのUI設計や配色等の改良に取り組みました

タイトル	工夫内容	画面イメージ
個別状況を把握するための個人データ表示機能の実装	<p>(検討課題・目的)</p> <ul style="list-style-type: none">令和6年度時点では、学校・学年・クラス単位で集計されたデータのみを表示しており、個々の児童生徒の詳細状況を直接確認することができず、具体的にどの児童生徒にどのような状況が生じているのかを把握することが困難であったそのため、着目した児童生徒の詳細状況を確認できることを目指した <p>(工夫内容)</p> <ul style="list-style-type: none">児童生徒一覧から表示対象を選択する操作により、対象児童生徒をスムーズに切り替えられる設計とした毎日のアンケートや健康観察の回答状況を直感的に把握できるよう、カレンダー形式のUIを採用した	
視認性向上に向けたグラフ配色の調整	<p>(検討課題・目的)</p> <ul style="list-style-type: none">従来のグラフ配色は、色覚特性に配慮したカラーユニバーサルデザインを採用していたが、その結果、色味が濃くなり、画面全体として視認性が低下することがあったそのため、アクセシビリティへの配慮を維持しつつ、より視認性を担保した配色構成を目指した <p>(工夫内容)</p> <ul style="list-style-type: none">グラフの配色については、色の透過度を調整することで過度な主張を抑え、背景や他要素とのコントラストバランスを改善した	

(3) 可視化システム・ツールにおける工夫 (3/4)

教育委員会ユーザーについて、域内の学校を横断的に参照していく必要があるため、学校の選択・切替えをスムーズに行うための機能を実装しました

タイトル	工夫内容	画面イメージ
教育委員会ユーザー向け学校切替閲覧機能の実装	<p>(検討課題・目的)</p> <ul style="list-style-type: none">本ダッシュボードは、ユーザーが所属する学校のデータのみを閲覧できる構成であったため、教育委員会のユーザーが複数校の状況を確認する際には、対象校ごとに別ユーザーとしてログインし直す必要があり、確認作業に大きな手間を要していたそのため、ユーザーの所属やアカウントを切り替えることなく、閲覧対象校を選択できるようにし、教育委員会ユーザーの閲覧負荷を下げることを目指した <p>(工夫内容)</p> <ul style="list-style-type: none">教育委員会ユーザーと判別されたアカウントについては、ダッシュボード表示時および閲覧中に対象学校を選択・切り替えできる機能を実装し、少ない操作で学校間の確認を可能とする設計とした教育委員会ユーザーの判別には、L-Gateの所属情報および権限情報を活用し、さらに校務支援システムとの名簿連携を組み合わせることで制御を行った。これにより、新たな権限体系を追加することなく、既存の権限運用を流用できる構成とした	<p>▼教育委員会ユーザーによる学校の切り替え画面</p> 

(3) 可視化システム・ツールにおける工夫 (4/4)

現場の教職員の日々の業務の中で利活用し易くなるよう、業務負担軽減のための入力プロセス改善や、データ更新頻度の調整を実施しました

タイトル	工夫内容	画面イメージ
<p>健康観察情報の反映速度向上に向けた入力プロセス改善</p>	<p>(検討課題・目的)</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎朝の健康観察について、従来は紙で記録し、後から校務支援システムへまとめて入力していたため、教員の事務負担が大きかった またシステムへの登録が遅れることで、ダッシュボードへのデータ反映も遅延し、当日の状況把握ができないことがあった そのため、入力プロセスを改善することによって、入力から可視化までのリードタイムを短縮することを目指した <p>(工夫内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル校務手帳を用いて教員がGIGA端末から健康観察情報を教室内で入力できる運用とし、アナログ作業を廃止した 	<p>▼教員向け説明資料</p> <p>教員用のGIGA端末を利用し、普通教室にて子どもたちの状況を確認しながら、「健康観察情報」を登録することができます。</p> <p>登録された情報は、校務用端末で利用する「デジタル校務」本体と即時連携されます。即時連携することで、教室での状況を職員室でリアルタイムに把握することが可能となります。</p> <p>デジタル校務の出席簿入力画面に「健康観察簿の呼び出し」ボタンが追加されています。登録した健康観察情報を出席簿に呼び出して利用することが可能となります。</p>  <p><デジタル校務 出席簿入力画面></p> <p><健康観察入力画面 座席表></p>
<p>運用実態に合わせたデータ更新頻度の調整</p>	<p>(検討課題・目的)</p> <ul style="list-style-type: none"> L-Gate「毎日の記録」における心の状態や生活習慣に関するアンケートについて、教員がダッシュボードを確認する朝の時間帯と、当日の回答が反映されるタイミングが一致しておらず、当日の状況を十分に把握できない場合があった そのため、朝のデータ確認時点で大半の回答が反映されている状態を目指した <p>(工夫内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ダッシュボード活用が進んでいる学校にヒアリングを実施し、管理職や養護教諭が概ね9時頃に当日の状況を確認していることが判明したため、その時間帯までに主要な回答データが反映されるよう、更新タイミングおよび頻度の見直しを行った 	<p>N/A</p>

(4) 現場活用促進のための施策・工夫

現場での活用を促すため、事前の訪問説明や、段階的な機能リリースを行ったほか、運用中も定期的に連絡・訪問を行い、教職員の困り感や要望の直接把握に努めました

時期	タイトル	工夫内容
事業開始前	現場の不安を解消する事前準備	<p>(検討課題・目的)</p> <ul style="list-style-type: none">教員の負担感や心理的ハードルを軽減しつつ、関係者の理解・合意形成を進めることを目的として実施した。 <p>(工夫内容)</p> <ul style="list-style-type: none">管理職、養護教諭、ICT担当者へ直接足を運び、実証の意図やスケジュール、教員の負担感について直接説明し対話。段階的な導入ステップ: 9月に教務手帳、10月にアンケート、11月に実証開始と、機能を1ヶ月ごとに順次開放し、操作に慣れるための「ゆとり」を確保した。各校の実態に即した研修: ダッシュボードや教務手帳の使い方を各校で実施し、導入時の心理的ハードルを下げる工夫をした。
運用中	現場の声を反映するサポート体制	<p>(検討課題・目的)</p> <ul style="list-style-type: none">運用中も、双方向のコミュニケーションと迅速な改善対応により、利用者の安心感と信頼性を高める必要がある。 <p>(工夫内容)</p> <ul style="list-style-type: none">電話やメールで随時意見を受け付けるだけでなく、市教委からも定期的に連絡を入れ、双方向のコミュニケーションを維持した。運用中に実際に学校を訪れ、先生方の「困り感」を直接把握。使い勝手に関する要望をお聞きした。システム改善: 「色味の調整」や「過去履歴の閲覧」など、現場の要望を可能な限り参画事業者と連携して形にした。

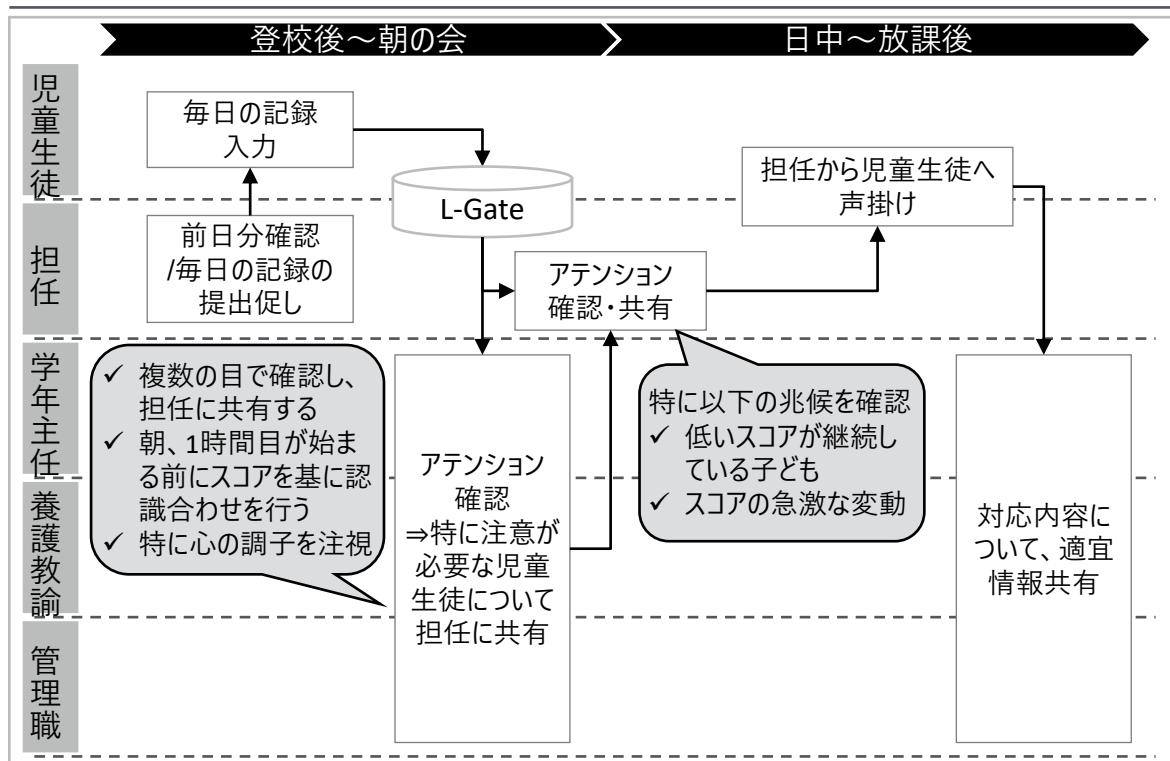
(5) 現場での活用状況

学校現場では、児童生徒の生活アンケート（「毎日の記録」）の回答結果や担任による健康観察結果、それらを反映したアテンション機能を中心に活用が進みました

学校や先生によって細かな活用タイミング等は異なるが、概ね以下のような業務の流れに基づいて活用している

- ① 朝の会で、児童生徒に「毎日の記録」の入力を促す。担任の先生は出欠席や健康観察を「デジタル教務手帳」を通じて入力する
- ② ①の入力結果を反映したアテンションについて、担任が確認をする。また教頭や養護教諭等担任以外の先生も確認をし、「心の調子」等で特に注意が必要な児童生徒がいた場合は担任に共有する。
- ③ 担任は朝の時間は忙しく、リアルタイムにチェックすることは難しい。時間があるときに前日のアテンション結果を見る等してキャッチアップする場合もある。

業務フロー



検知課題・リスク、それらへの対応

- ・ 特に担任は、朝の時間は忙しく、ダッシュボードを見る時間が取れない
- ・ 見る時間がなかなか取れない一方で、重要な項目設定であるがゆえに「見落とせないプレッシャー」が増える
- ・ 教室でダッシュボードを確認しようと思ったときに、担任が朝の会や授業等のために既に画面投影をしていると端末がふさがり確認できない

⇒学校全体での共有体制等、「担任の先生一人の責任にならない」ような運用体制を構築する

- ・ 「毎日の記録」の入力がされていない（データの無い）児童生徒に対する解釈が難しい（例：遅刻してくる児童生徒は入力がされないことが多い）

(6) 効果検証結果 (アンケート)

効果検証においては、活用重点校の教職員を対象にアンケートを実施し、データ入力機能やダッシュボードの使いやすさ、実際の使い方、得られた気づき等について調査しました

アンケート回答サマリ

考察・得られた示唆

システムの主な 使われ方	アンケート回答サマリ	考察・得られた示唆
システムの使い やすさ	<ul style="list-style-type: none"> ダッシュボードの確認は「アテンション」が主（35件の回答のうち、22人が選択）で、その確認時間は「～5分」といった短時間が多数（80%）あった 	<ul style="list-style-type: none"> ヒアリングでも挙げたが、ダッシュボードの中で特に閲覧されたのは今回新規機能追加をしたアテンションであった。これは「アテンションが有効だった」とも言えるが、一方で「アテンションしか見られなかった」とも言える。 ヒアリング等からも先生方の時間的制約が確認されており、わずかな時間で抽出された項目のみ見るとい運用が主であることが分かった。じっくりと分析を行う運用が学校現場でどこまで現実的であるか、そもそも必要であるか含めて検討が必要である。
システムの効果	<ul style="list-style-type: none"> システムユーザビリティスケールの平均点は、32.63点（50点満点）であった 最も肯定的回答の割合が高かった質問は「このシステムを使いこなすには技術者のサポートが必要だと思う。」（“あまりあてはまらない”&“あてはまらない”で57%）、最も否定的回答の割合が高かった質問は「このシステムを使うことにとっても自信が持てた。」（“あまりあてはまらない” & “あてはまらない”で34%）であった 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度28.23点（n=31）であったことから、一定の改善が示唆される結果となった。アテンション機能の新規導入を中心に、改善があったと言える。 一方、システム利用に自信があまり持てなかったユーザーがいるのは、閲覧する時間的余裕の無さやシステムを見た後の具体的な支援等の行動に繋がりにくいこと等が、システムの利用に自信を持ちづらい理由であると考えられる。

(6) 効果検証結果 (ヒアリング)

活用重点校の教職員へのヒアリングでは、アンケート回答をさらに深掘りし、日々の運用の中でのデータの捉え方や、継続的に利活用を進めていく上での課題について確認しました

	ヒアリング回答サマリ	考察・得られた示唆
実際にアテンションを見て感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> アテンションには、複数回同じ児童生徒が挙がってくることでよくあり、その対象児童生徒は日々の生活状況から見ても納得できるものであった 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の生活状況から見ても納得できる児童生徒が挙がってきているのは、改めてデータで確認するという意味でも一定意義のあることであると言える。 一方で、恒常的にそのような児童生徒が挙がってくることで先生方があまり結果を注意深く見なくなってしまうといった懸念はある。現場での運用として「普段あまり気にしていない児童生徒が挙がっていないか」という変化を見る観点で毎日の結果を見る習慣化が必要である。
データ入力の運用的な課題	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒本人の回答であることの良さを感じていた一方でデータの入力における課題もあった（例えば「今日の心の調子を選んでください」という質問の意味がうまく理解できていない子がいる。遅刻等、支援が必要かもしれない児童生徒ほど入力がされない） 	<ul style="list-style-type: none"> 今回、児童生徒向けアンケート「毎日の記録」では小中学校共通の質問項目を設定したが、発達段階によっては文章が抽象的で難しい側面もあったと言える。 学年ごとではなくとも小学校／中学校の区分けをして質問をわけたり、より具体性の高い質問の文言や選択肢に変更する等の対応が考えられる。
ダッシュボードを見た後の支援への接続	<ul style="list-style-type: none"> 朝にダッシュボードを見る余裕がないのと同時に、朝見たとしても即時対応できる自信がない 	<ul style="list-style-type: none"> 「誰がいつ、何の情報を」確認すべきか／しなくても良いか、整理が必要であると言える。例えば朝の会直後の確認は担任の必須事項とはせず養護教諭等他の先生方で補足し職員会議等で全体共有する機会を設ける、一方で担任も放課後に必ず一回はその日の様子を確認する等が運用例として挙げられる。 スクールカウンセラー等外部の人材活用も包括的な支援の観点で重要である。また、児童生徒の入力タイミングも柔軟にし朝の会だけではなく一日通した運用の検討も一案である。

(7) 今年度実証研究の総括・今後の展望

今年度実証では、全教員で全児童生徒を支援していく上での、データ利活用の有効性が示されました。今後はさらに運用設計の精査を進め、DX化による業務改善と両輪で、データ利活用の定着、学校全体での支援スキーム構築に取り組む方向性が考えられます

1. ダッシュボード活用推進の前提

- 子ども支援に効果があること（不登校・いじめの早期対応等）
- 業務改善（働き方改革）につながる
- 現場の多忙感を踏まえ、**高い労働対効果**が必要

2. 実証で得られた成果

- 不登校・いじめの早期対応に対する効果を教員が感じた
- 心の不調を訴える児童生徒への早期の声かけが可能になった
- 担任だけでなく、教頭・学年主任・養護教諭等が情報を共有して関わる体制の有効性が認識された
- 「全教員で全児童生徒を見ていく」意識が作られるようになった

3. 今後の推進の方向性

- 小学校／中学校それぞれに合った運用の検討
 - 小学校では、担任単独ではなく、養護教諭・管理職を中心とした学校全体での支援スキームを構築
 - 中学校では、学年主任が学年全体を把握・支援する運営を想定
 - （スクールカウンセラー等学校外の人材の活用も一案）
- アンケート実施・ダッシュボード確認の時間確保を前提とした運用設計（「誰が、いつ、何を確認するか」の明確化）
- DX化による業務改善と、ダッシュボードを活用した支援の充実を両立

Appendix_長浜市_ダッシュボード・アプリ画面_教務手帳入力画面

検証小 R08.02.17

学年 クラス 交流学級で表示 対象日 再検索 検索条件設定

健康観察状況 (未選択) ・ / × // 子 ハ 子ハ クリア スタンプ選択 (出欠席等)

出席番号	写真	氏名	性別	2.17 (火)	理由1	理由2	2.16 (月)	理由1	理由2	2.13 (金)
1		内田 彩香	女							
2		内田 愛梨沙	女							
3		内田 克彦	男							
4		内田 圭介	男							
5		内田 健太郎	男							
6		内田 辰美	男							
7		内田 智香	女							
8		内田 みお	女							
9		内田 洋子	男							
10		内田 良平	男							






テーブル 空白のみ全出 保存

Appendix_長浜市_児童生徒向け 毎日のアンケート回答画面

毎日アンケート2025

発信元 : 長浜市教育委員会

1. 今日の心の調子を選んでください。
きょうの こころのちようしを えらんでください。
* 単一回答

2. 朝食は食べましたか。
あさごはんは たべましたか。
* 単一回答

3. 昨日はよく眠れましたか。
きのうは よく ねむれましたか。
* 単一回答

今年度追加項目

Appendix_長浜市_アテンション表示画面

■学年・クラス選択時画面

(検証用) 長浜市ダッシュボード2024
ダミー-001小学校
2025年12月1日 月曜日 16:19
ダミー教員 t000001 さん

アテンション

対象者 表示形式 学校 学年 クラス

小学第1学年 小学第2学年 小学第3学年 小学第4学年 小学第5学年 **小学第6学年** 学年無し

表示

2025年12月1日 月曜日

- 心の調子が「とても良くない」と回答した 合計 41 人
- 心の調子が「良くない」の回答が2回続いた 合計 14 人
- 心の調子の回答が「良くない」に下がった 合計 30 人
- 朝食を「食べていない」の回答が3回続いた 合計 34 人
- まったく眠れていないと回答した 合計 55 人**
- よく眠れていない回答が3回続いた 合計 18 人
- 健康観察の結果が「不明」「連絡なし」 合計 0 人

■個別カード選択時画面

アテンション情報
2025年12月1日 月曜日 学校 ダミー-001小学校 学年 小学第6学年 クラス -

まったく眠れていないと回答した 合計 3 人

クラス	氏名
2025年度 6年1組 ①	ダミー児童生徒 t000219
2025年度 6年2組 ①	ダミー児童生徒 t000227
2025年度 6年2組 ②	ダミー児童生徒 t000237

生活

- 心の調子: 月 火 水 木 金 土 日 (色付きバーチャート)
- 朝食: 月 火 水 木 金 土 日 (色付きバーチャート)
- よく眠れたか: 月 火 水 木 金 土 日 (色付きバーチャート)
- 就寝時間: 月 火 水 木 金 土 日 (色付きバーチャート)
- 家庭学習時間: 月 火 水 木 金 土 日 (色付きバーチャート)
- 健康観察: 月 火 水 木 金 土 日 (色付きバーチャート)

学習

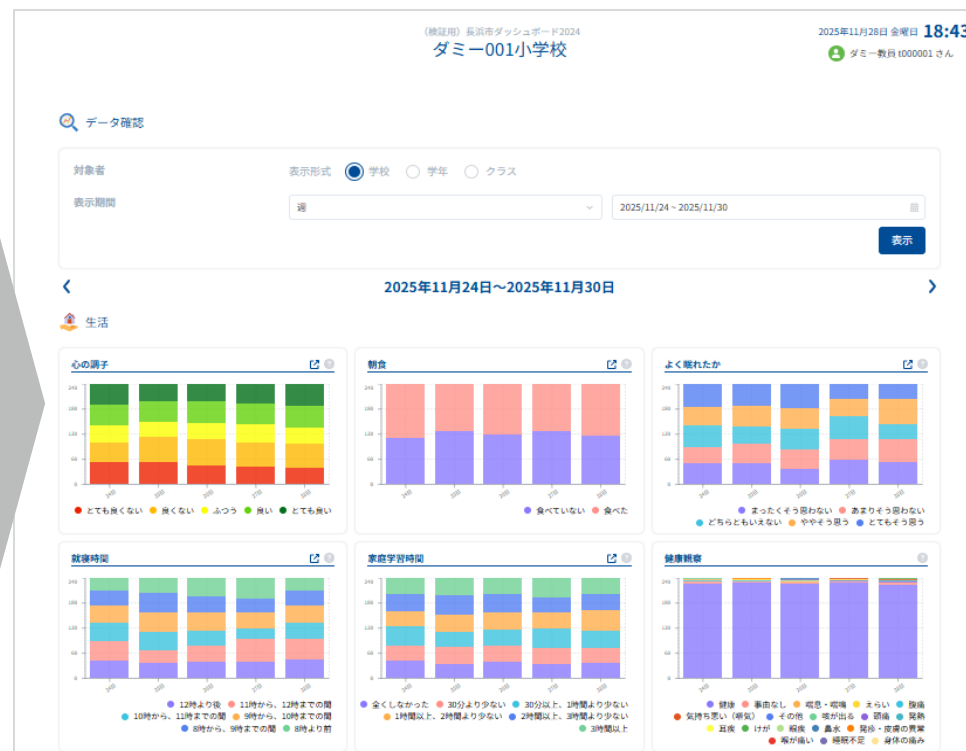
- Qubena 取り組み問題数
- MEXCBTの取り組み状況

Appendix_長浜市_視認性・見やすさの改善

R6年度（前回）版



R7年度（今回）版



- グラフの色合いを統一
- 選択肢の順番を「否定的回答→肯定的回答」に統一
- 表示期間を「週／月」で選択可能

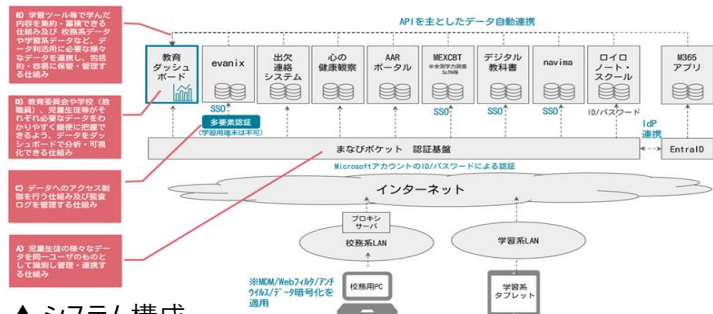
2. 鹿児島市_実証研究報告

実証研究の概要_鹿児島県鹿児島市

鹿児島市では、教育目標の実現に向けた教育データの利活用を掲げ、「現場で使われ続ける」ダッシュボードの構築を目指して実証研究を推進しました

構築システム概要

- 本実証では、学習eポータル「まなびポケット」に搭載された「教育ダッシュボード」を基盤として教育データの利活用環境を構築している。
- データはAPI連携を前提とした自動連携を主とし、まなびポケット認証基盤にて児童生徒と紐づけた各種学習データ、校務データ、生活データをダッシュボードに反映させている。
- ユーザーロールによってデータ閲覧可能範囲は制限され、データアクセス制御を行う仕組みとして多要素認証を整備している。



▲ システム構成



▲ ピックアップ・ピン留め機能

▲ AIレポート機能：連携済みのアプリ・システムの情報をもとに生成AIレポートを自動生成



◀ 特徴分析機能：クラスや児童生徒を選択し、複数データを掛け合わせて特徴・傾向を分析

活用を促すシステム面/運用面の工夫

誰でもデータから気づきが得られる工夫（生徒ピックアップ・ピン留め機能）

検討課題・目的

- ダッシュボードの活用にあたり、日々の教育活動で多忙な教職員に対して、データを都度読み解く等の負担を軽減する必要があったため、知りたい情報にすぐにアクセスできる仕組みが必要だった

工夫内容

- 確認すべき情報に絞って、特に気にかけるべき生徒情報を表示する「生徒ピックアップ」機能を実装。
- 気にかけた児童生徒の出席状況と心の健康状態をピン留め表示する機能を実装

学校現場でのプロトタイプ検証を踏まえた要件定義・開発

検討課題・目的

- 活用され続けるダッシュボードを構築するため、ユーザー一人ひとりの目的に合った設計や、活用負荷が低く活用価値を感じやすいダッシュボードの構築が必要であった。

工夫内容

- 真に活用されるダッシュボードを開発するため、①～④を繰り返しながら検討を進めた
- ①ダッシュボードの活用目的やユースケースを検討
- ②検討した活用目的等をもとにプロトタイプを作成
- ③教育現場で実際に活用していただく
- ④活用の結果出てきたフィードバックをもとに改善点を洗い出す

操作研修によるサポート

検討課題・目的

- ユーザが迷うことなくダッシュボードを活用できる状態を目指すとともに、ダッシュボードの価値を認識して積極的に活用してもらうことを目指す

工夫内容

- ダッシュボードの操作研修の実施や各機能のメリットと事例紹介で、教職員のデータ利活用に対する意欲を醸成
- 学校現場と密に関り、現地対応/オンライン対応/動画共有等による、操作方法や運用に関する不明点に対して即時対応できるサポートを実施

(1) 事業概要

鹿児島市では教育目標の実現に向けた教育データの利活用を掲げており、本実証では施策に紐づいたユースケースの創出を目的に、ダッシュボードを設計しています

背景・目的

■実証の背景・課題

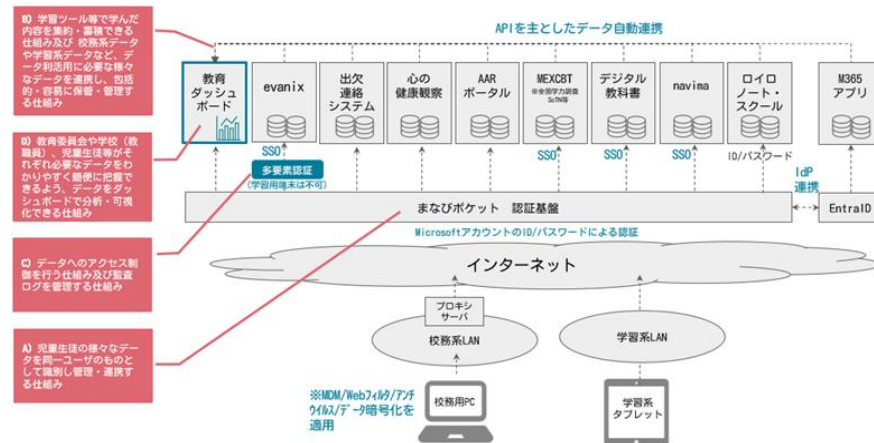
- 鹿児島市では、「鹿児島に誇りを持ち これからの時代に必要な生きる力を養い 心身ともにたくましく まなび続ける人材を社会全体で育成」する教育目標を掲げており、教育データを活用し実現していく方向性である。
- 鹿児島市では、データ利活用の仕組みは徐々に整いつつあるものの、まだデータ活用そのものは日常化していない。先行自治体で展開されている多くのダッシュボードは「技術的に取得・表示可能な情報」をそのまま可視化しているにとどまっており、現場での実用性が十分に考慮されていないケースがある。
- また、学校現場においてデータ分析の専門人材を配置することは、予算や人材確保の観点から現実的ではなく、教員自身が高いデータ分析スキルを身につけて活用することにも限界がある。こうした人材面の制約も、データ活用の定着を妨げる要因となっている。

■令和7年度実証の目的

- 本事業（教育データ利活用の加速化事業）の趣旨である、教育データ利活用の目的設定、環境構築、データの収集、分析、分析結果の活用までの一連のプロセスを実証したうえで、**真に活用価値のある教育データ利活用のユースケースの創出や、効果的な活用に向けたノウハウなどを創出し、教育データ利活用の推進に寄与することを目指す。**

構築システム概要

- 本実証では、学習eポータル「まなびポケット」に搭載された「教育ダッシュボード」を基盤とし、学習系システム（まなびポケット）にて教育データの利活用環境を構築する。
- データはAPI連携を前提とした自動連携を主とし、まなびポケット認証基盤にて児童生徒と紐づけしたデータをダッシュボードに反映させる。
- ユーザーロールによってデータ閲覧可能範囲は制限され、データアクセス制御を行う仕組みとして多要素認証を整備している。



(1) 事業概要 実施体制・スケジュール

今年度の実証に際しては、市内小中学校1校ずつを実証校に位置付け、日々のデータ入力からダッシュボードの利活用までの一連の取り組みと、効果検証を実施しました

	参画者	主な役割
実施体制	鹿児島市教育委員会 教育DX推進担当	実証事業全体の推進、実証校との調整、ダッシュボードの教育委員会機能の利用実践
	①エヌ・ティ・ティ・ドコモビジネス株式会社 (代表) ②スズキ教育ソフト株式会社 ③バシステムソリューションズ株式会社	①プロジェクト全体の管理、実証内容の設計および遂行、ダッシュボードの開発提供 ②校務支援システムevanixの提供および環境構築 ③ネットワーク環境構築および校務用PC環境整備
	・中学校1校 ・小学校1校	本実証における対象校として、児童生徒および教職員によるデータ利活用の実践



(2) 利活用対象データ項目

データの活用に際しては、情報保護の観点で現場や校務支援システム提供事業者との事前協議を行い、セキュリティを担保したうえで提供を進めました

項目分類	項目名	取得頻度	連携元	表示先ダッシュボード・表示単位		
				管理職	教職員	教委
校務データ	欠席者数超過	深夜1回	evanix	3者ともに表示		
校務データ	保健室利用の多い生徒	深夜1回	evanix	3者ともに表示		
生活データ	本日の心の健康観察一覧	リアルタイム	まなびポケット	3者ともに表示		
校務データ	生徒指導案件	深夜1回	evanix	3者ともに表示		
校務データ	日常所見	深夜1回	evanix	3者ともに表示		
学習データ	AARポータル振り返り状況	7:00～20:00 にて毎時 00 /30 分 および深夜 1 回	まなびポケット	3者ともに表示		
校務データ	定期テストの得点	深夜1回	evanix	3者ともに表示		
校務データ	定期テストの得点推移	深夜1回	evanix	3者ともに表示		
校務データ	保健室利用数の推移	深夜1回	evanix	3者ともに表示		
校務データ	保健室利用状況	深夜1回	evanix	3者ともに表示		
生活データ	出欠情報	リアルタイム	まなびポケット	3者ともに表示		
学習データ	アプリ活用状況	深夜1回	まなびポケット	3者ともに表示		
学習データ	端末活用状況	深夜1回	まなびポケット	3者ともに表示		
学習データ	MEXCBET	深夜1回	まなびポケット	3者ともに表示		
学習データ	ScTN質問紙	深夜1回	まなびポケット	3者ともに表示		


● データ項目定義を進める上での工夫・留意事項

・特に情報保護の観点で、現場や校務支援システム提供事業者と検討を重ね、適切なセキュリティ対策を施した上で提供した

・当実証前に、別途現場検証を踏まえた連携データ定義を参画事業者にて実施の上、当実証内では教職員とのディスカッションおよびヒアリング（実証校の現場で4回、オンライン形式で2回）を実施し、対象データを実際に利用する中での過不足、活用メリットのフィードバックを得ることでユースケースの創出・課題洗い出しを図った

(3) 可視化システム・ツールにおける工夫 (1/2)

学校現場での活用が進まない背景を考慮し、本実証では、ユーザー自らが目的に応じて画面カスタマイズを可能とするなど、実用性の高いダッシュボード構築を追求しました

タイトル	工夫内容	画面イメージ
<p>自治体の教育目標に沿った画面設計・各ユーザーの目的に応じた画面設計が可能</p>	<p>(検討課題・目的)</p> <ul style="list-style-type: none">ダッシュボード構築済の自治体において、ダッシュボードを実装したものの現場で活用されていないケースが見受けられる。背景としては、ダッシュボードの活用目的や、一人一人の役割や目的にあった画面設計がされていないこと、取得できたデータからダッシュボードに表示されているため、活用価値が乏しく、現場に理解されていないことなどが挙げられる。 <p>(工夫内容)</p> <ul style="list-style-type: none">教育委員会の教育目標やダッシュボード活用目的に沿った画面設計が可能。そのうえで、各役職・役割、ユーザーのダッシュボード活用目的によって自由に画面設計をカスタマイズできる機能を具備した。これにより、データをただ網羅的に表示するダッシュボードではなく、ユーザーの意思と目的にフィットする「教育現場で真に活用できる」ダッシュボードの実現を目指した。 <p>(ユーザーからの声)</p> <ul style="list-style-type: none">今までのダッシュボードは「これを見る」となっていて、先生によって何を見たいかが分からなかった。これはダッシュボードの民主化だと思う。 今まではダッシュボードは上から付与されるものだったが、まなポケは全ての先生の目線に立ったダッシュボードだと思う。	<p>■ 初期設定機能のイメージ</p> <p>教育委員会は教育目標やダッシュボード活用目的をもとに、各学校が閲覧する画面設計を事前に初期設定可能</p>  <p>■ カスタマイズ機能のイメージ</p> <p>カード一覧 学習カード、生活カードが表示されます。 カードの追加や削除、サイズやレイアウトの変更も可能です。</p> <p>カードのサイズ・位置変更や表示内容の編集や削除ができるので、アカウント毎に見たい情報を自由にカスタマイズできます</p> 

(3) 可視化システム・ツールにおける工夫 (2/2)

日々様々な教育活動を行う教職員の負担を踏まえ、気になる情報にアクセスしやすく、アクションに繋がるダッシュボードとするため、ピックアップ/ピン留め機能を実装しました

タイトル	工夫内容	画面イメージ
<p>誰でもデータから 気づきが得られ る工夫 (生徒 ピックアップ・ピン 留め機能)</p>	<p>(検討課題・目的)</p> <ul style="list-style-type: none">ダッシュボードのデータをいちいち読み解くことがユーザーの負担であり、日々の教育活動で多忙な教職員にデータを読み解かせることは不可能であり不要教育活動の中に馴染み、知りたい情報にすぐにアクセスできる仕組みがないとダッシュボードの価値は発揮できない <p>(工夫内容)</p> <h4>生徒ピックアップ</h4> <ul style="list-style-type: none">朝1日の始まりに確認すべき情報に絞って表示するピックアップ機能を実装授業理解度・満足度などの学習面や、出欠情報・保健室来室状況・心の健康観察の結果などの生活面の情報をもとに、今日気にかけて方が良い児童生徒をピックアップして表示 <h4>ピン留め機能</h4> <ul style="list-style-type: none">気にかけていたい児童生徒をピン留めすることで常時メニュー表示することが可能様子を把握しておきたい児童生徒の、今日の出欠状況と心の健康状態をリアルタイムで把握が可能 <p>(ユーザーからの声)</p> <ul style="list-style-type: none">1日の始まりに毎日見ている、生徒への声掛けや関係者との連携に繋げている。確認時間は1人1分もかからない。	 <p>■生徒ピックアップ</p> <p>■ピン留め機能</p> <p>特定の子どもをピン留めすることで最新の心の健康状態と出欠状況を継続的に確認できます</p>

(4) 現場活用促進のための施策・工夫 (1/2)

実証校と密に連携し、現場の声を踏まえた要件定義・開発を実施することで「現場で活用されるダッシュボード」を目指しました

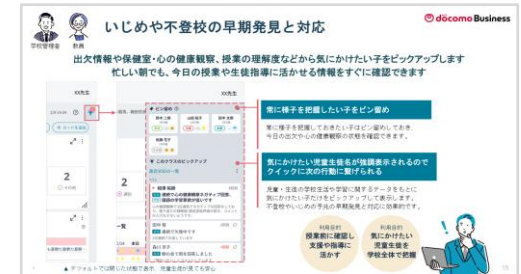
時期	タイトル	工夫内容
要件定義/開発・テスト	学校現場でのプロトタイプ検証を踏まえた要件定義・開発	<p>(検討課題・目的)</p> <ul style="list-style-type: none"> ダッシュボード構築済の自治体事例ではダッシュボードを実装したものの現場で活用されていない課題がある。 背景としては、ダッシュボードの活用目的が明確かされていないことや、教育現場の一人一人の役割や目的にあった画面設計がされていないことがあげられる。 莫大な開発・人的コストをかけて構築したダッシュボードにもかかわらず、活用負荷が大きく価値が乏しいダッシュボードのままだと教育データ利活用は推進されない。 この課題を解決するため、参画事業者による当実証前の検証も含め、累計150回以上の教育現場での検証をもとに教育現場に沿ったダッシュボードの開発を実現した <p>(工夫内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 真に活用されるダッシュボードを開発するための工夫として、以下の流れに留意して実証に取り組んだ <ol style="list-style-type: none"> ①ダッシュボードの活用目的やユースケースを検討 ②検討した活用目的等をもとにプロトタイプを作成 ③教育現場で実際に活用していただく ④活用の結果出てきたフィードバックをもとに改善点を洗い出す (①に戻る) 改善点をもとにダッシュボードのUIUX、ユースケースを検討

(4) 現場活用促進のための施策・工夫 (2/2)

ダッシュボードの活用を促進するため、教職員の利活用ハードルを下げるとともに、積極的に活用いただけるよう、操作研修や事例紹介を行いました

時期	タイトル	工夫内容
稼働直前	操作研修によるサポート	<p>(検討課題・目的)</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての先生が迷うことなく、日々ダッシュボードを円滑に操作し教育データの利活用ができる状態を目指した。 ユーザーの円滑な操作に加え、ダッシュボードの利活用を促すためには、日々のデータが十分に蓄積されている環境が重要。データを着実に蓄積するため、以下の機能の利用を促進する必要があった。 <ul style="list-style-type: none"> 心の健康観察 出欠連絡 AARポータル ScTN質問紙 <p>(工夫内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ダッシュボード操作研修 <ul style="list-style-type: none"> 実際のダッシュボード画面を先生方にご覧いただきながら、教育現場の日々の業務の場面を想定し、「どのような場面でのように活用できるのか」をイメージしやすいように、具体的な活用シーンとともに操作方法の説明を行った。 各機能のメリットと事例紹介 <ul style="list-style-type: none"> 各機能について単なる操作説明にとどまらず、活用メリットとすでに導入している自治体における実際の活用事例も紹介し、具体的な活用イメージを持っていただけるようにした。 現地とオンラインのハイブリッド形式でのサポート <ul style="list-style-type: none"> 現地参加とオンライン参加を組み合わせたハイブリッド形式で実施。現地ではその場でサポートを行い、操作方法や運用に関する不明点を即時に解消できるよう対応。 研修動画の共有 <ul style="list-style-type: none"> リモート研修の内容は録画を行い、後からいつでも視聴できるようにした。これにより、研修内容を振り返ったり、参加できなかった先生方にも内容を共有できる環境を整えた。

▼ダッシュボード研修



▼心の健康観察研修



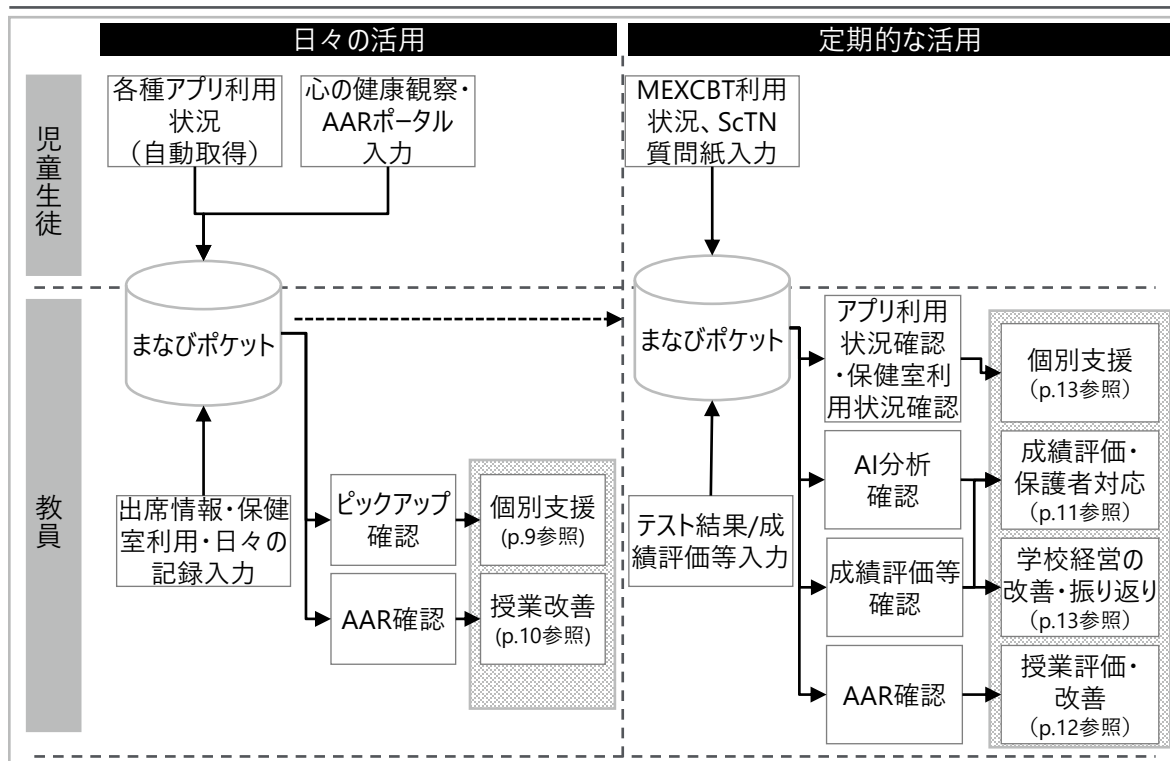
(5) 現場での活用状況

日常的に入力・確認されるデータと、定期的に入力・確認されるデータそれぞれについて、活用ユースケースを設定し、実際の学校現場での運用を促しました

日常入力：心の健康観察・AARポータル（児童生徒）、出席情報・保健室利用・日々の記録（教員）、各種アプリ利用状況（自動取得）等
定期的入力：MEXCBT利用状況、ScTN質問紙（児童生徒）、単元・定期テスト・成績評価・評定・通知表所見等（教員）等

日常確認：出席情報、心の健康観察、ピックアップ（注意すべき特異な変化に関するアラート）、AARポータル（授業の振り返り）等
定期的確認：一定期間におけるAI分析、各種アプリの利用状況、AARポータル（単元レベルでの授業評価）保健室利用、単元・定期テスト結果等

業務フロー



検知課題・リスク、それらへの対応

- 教員による日常的な教育データの活用が制度化・常態化しておらず、データ駆動型の教育改善文化が十分に醸成されていない。
 ⇒教員の日常的・定期的業務におけるデータ入力および確認作業の適切な業務内位置づけを確立し、併せて会議・委員会等におけるデータ利用の高度化・拡大を図る。
- AI分析の有効性を担保するために必要なデータ群が十分に収集・蓄積されていない状況にある。
 ⇒AI分析の精度および粒度を向上させるための多元的データ収集体制の構築と、データ入力作業の省力化、ならびに当該作業の必要性に関する教職員・児童生徒双方の認知向上を図る。

(6) 効果検証結果 (ユースケース別) _朝、必要な情報をスピーディに確認して対応する

ピン留め機能により、気になる児童生徒の情報に迅速にアクセスし、声掛け等に活かされている一方で、データの十分性を確保するためには学校全体で入力を習慣化していくことが重要と考えられます

課題

これまで教職員や管理職が気にかけている児童生徒の様子を確認するには、直接様子を見る・担任教員に直接聞くことが主であり物理的・時間的な限界と情報のタイムラグが課題であった。

解決策

気にかけている児童生徒の最新の状態がいつでも確認できるため**情報収集の手間とタイムラグを削減できる**。
ダッシュボードで情報を持ったうえで会話できるため、質の高い情報共有ができる。

活用ユースケース

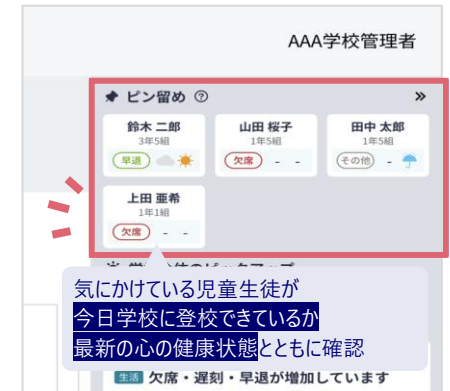
1 ピン留め機能を開く



2 気にかけている子をピン留めする



3 継続して経過観察を行う



効果・活用状況に係るユーザーコメント

- 朝の短い時間で生徒ピックアップを確認することで、生徒の見ていなかった状態や変化の把握ができる。
- 関係者間で連携した見守りが可能になったという声があった。

(ユーザーコメント)

- 朝の数分で、児童生徒の状態を把握し声掛けに活かしている。確認するのに1人1分もかからない。
- 自分でも生徒には毎日声掛けをしているが、保健室の先生や管理職の先生も結果を確認してくれているのがありがたい。

改善点に係るユーザーコメント・今後の方針

- タブレットを開けるのがめんどくさいという子がいて、毎日、心の健康観察をやるように伝えているがそうはいかない子もいる。入力を癖つけられるようなアイデアが欲しい。
- 「心の健康観察は校長先生も見てるから、普通とかだるいとかでもいいからコメント入れてね」と伝えると記入してくれる子が多くなった

【今後の方針】

- 担任の先生だけに頼るのではなく、学校全体で習慣化していくコツや事例を収集・検討する。
- 校長先生や他の先生も児童生徒の入力内容を見ていることを児童生徒に伝えるなど、様々な学校運用方法が考えられる。

(6) 効果検証結果 (ユースケース別) _子どもたちの学習状況や学力・授業進捗をもとに授業を改善する

AAR機能により、授業ごとの児童生徒の理解度等を把握し、授業準備時に意識するようになったというコメントがありつつ、入力を定着させていく必要性についても言及がありました

課題 児童生徒が授業を理解できたか・授業目標が児童生徒に届いたかどうかは、テスト結果や直接児童生徒に聞くことでしか把握できず、**定量的に児童生徒の日々の学習理解度や満足度を把握するのが難しい**状況だった。

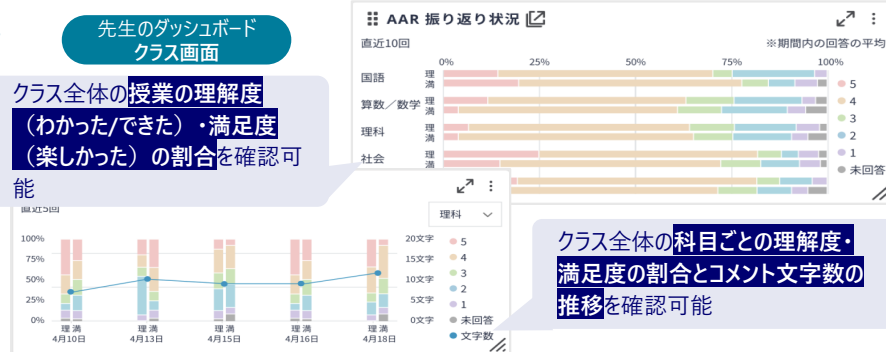
解決策 まなびポケットの時間割機能 (AAR) から「**わかった・できた (理解度)**」「**楽しかった (満足度)**」と授業振り返りコメントを入力することで授業ごとの振り返りが可能。これらのデータをダッシュボード画面で確認することで、児童生徒が授業を受けている様子と見比べながら**データに基づいた日々の授業改善を行うことができる**。

活用ユースケース

1 授業の後、児童・生徒に授業振り返りを「時間割」(AAR)メニューから入力するよう促す



2 ダッシュボードのクラス画面・生徒画面から振り返り状況を確認し、授業改善に活用する



効果・活用状況に係るユーザーコメント

- 授業中の印象と児童生徒の理解度・満足度の結果を比較・把握することは、授業準備や生徒への声掛けに有効との声

(ユーザーコメント)

- ダラっとして授業を受けている子どもポジティブな振り返りコメントを書いていた。授業中に様子を見ていた時に受けていた印象とすごく違う。
- 授業準備の時に意識することがすごく変わった。「あの子がこんなこと書いてたな」というのを意識して準備をするようになった。
- 教科の評価をする時に授業に出席しているかは大事なポイントだが、今ほどこにも記録されていないので、AARを使っている。

改善点に係るユーザーコメント・今後の方針

- タブレットを開いて入力してというのは難しい。毎時間タブレット使った授業をやっていたら違うと思うが、鉛筆をもって書かせるのも大事にしたい。言わないとまだいれてくれないので、習慣化することが自分としての課題。

【今後の方針】

- 授業ごとの出席簿代わりに必ず最後にAARに入力してもらい、それを成績評価でも確認するなど「必ず毎回入力すること」の意味づけを教員・児童生徒ともに納得できる運用をすることで習慣化が図れる
- 教育委員会や管理職が教員に呼びかけを実施することで振り返りの定着につながる点を今後活用のコツとして紹介していく。

(6) 効果検証結果 (ユースケース別) _保護者対応や成績評価の前に生徒の情報を確認する

AIレポートは、児童生徒一人ひとりの情報を取り纏めて把握する手段として受け入れられており、
 今後はより具体的な情報を示せるよう、改善を検討していくことが必要と考えられます

課題

保護者から問い合わせがあり管理職や学年主任が対応をする必要がある場合や、教員が成績評価をする際など、**正確な情報を元によりやりとりを行うため担任の教員からの丁寧な情報共有や点在している情報の一つひとつを確認する必要があった。**また、通知表に教員からのコメントを記載する際には**一人一人の頑張ったことを振り返り、文章をゼロから考える作業が大きな負担となっていた。**

解決策

ダッシュボードに、**連携済みのアプリ・システムの情報が集約され、その情報をもとに生成AIレポートが自動生成される。**そのため、各カードを読み解かず概要を把握した上で各カード詳細を確認することができるため、**情報収集の時間を大きく削減できる。**
 また、**指定した期間の児童生徒の変化に対してどのようにフィードバックするのかの文例も提示する**ため、通知表コメントを作成する手間の軽減することができる。

活用ユースケース

1 生徒の情報を集めたい

〇〇さんのお母さんから問い合わせだ

面談や成績評価のために、生徒の情報が欲しい

2 生徒画面で基本情報やAIレポートを確認し、必要に応じて個別のカードで詳細情報を把握する

AIに読み込ませるデータや、データの取得期間を変更して、何度でも再生成することが可能

カード: まなびポケットのみ | 期間: 1週間 | 表示形式: 固定表示 | 今週残り10回 | レポートを再生成

08/18(月) XXXX生成 | 08/17(日) XXXXまでのデータを集計 | まなびのこみ1週間_固定表示

直近1週間早退や遅刻が続いている、心や体の調子が少し気になるところですね。その一方で学習アプリのドリルパークにはとても意欲的に取り組んでお

※本機能では生成AIを活用しています。表示される情報には不正確な内容が含まれる可能性がありますので、正確な情報が必要な場合はご自分で事実確認を行うようお願いいたします。

レポートに使われたカード

出欠情報

日	月	火	水	木	金	土
11/26	27	28	29	30	12/1	2
-	-	-	-	-	-	-
3	4	5	6	7	8	9

心の健康観察

日	月	火	水	木	金	土
11/26	27	28	29	30	12/1	2
-	-	-	-	-	-	-
3	4	5	6	7	8	9

3 面談ではデータを見ながら、根拠に基づいて会話をできる

心の健康観察

日	月	火	水	木	金	土
11/26	27	28	29	30	12/1	2
-	-	-	-	-	-	-
3	4	5	6	7	8	9

AAR 振り返りコメント

日付	教科	コメント	理解度	満足度
05/20	算数/数学	むずかしかった	3	4
05/20	外国語	となりの人と話すのが楽しかった	5	4
05/20	理科	-	5	4
05/19	国語	おじいさんがかわいそうだった	5	4
05/19	社会	おこめについてくわしくなった	5	4

気になる項目がある場合は、AIレポートの根拠となる詳細情報を確認可能

効果・活用状況に係るユーザーコメント

- データ入力の手間なく自動で総括が生成される点は点在するアプリ・システムから情報を収集する手間や学期全体を思い出す負担が減って業務改善につながるという声が挙がった

(ユーザーコメント)

- ダッシュボードの各カードを見て読み解くのは時間がかかるし、GeminiやCopilotはデータを投入するのもデータを整理して読み込ませるための稼働がかかるが、まなびポケットのAIレポートはデータが連携されていてその手間がない点がメリット。成績評価にはものすごく時間かけているので、すごい業務改善になる。

改善点に係るユーザーコメント・今後の方針

- 一人一人頑張った単元が違うので探してて評価コメントをつけているが、それがすごく負担になっている。4人分やってコメントつくだけでも1時間くらいかかるので、そこが楽になると嬉しい。
- 「授業を前向きに取り組んでいるよね、でも得点がふるわない教科は.....」という話をしたとして、教員側が「どの教科が振っていないのか分かっていないといけない。(今のレポート内容は総括的に丸めて書かれているので) 具体的な教科名まで聞きたい。

【今後の方針】

- 生成AIレポートのプロンプトを調整し、学習に関してレポートする際には具体的な科目や単元を示すように改善を検討する。

(6) 効果検証結果 (ユースケース別) _学校教育の成果を振り返り、施策を考える

ScTN質問紙と実際の生徒の見取りを組み合わせることの重要性や、教科・単元・実施日と紐づけた結果確認に対するニーズ等についてコメントが挙がりました


課題 これまで多くの学校で「主体性の育成」「自己肯定感の向上」などの学校目標を掲げてきたが、その達成状況の把握は教員の所感や振り返りに依存するなど、定性的な評価が中心であった。目標と実態の関係が明確になりにくく、取組の効果検証や改善策の具体化が十分に行えないという課題があった。

解決策 ScTN質問紙は主体性や自己効力感などの非認知能力を定量的に把握でき、学校目標を数値目標として設定・計測することが可能となる。さらに、ダッシュボードにてScTN質問紙の結果だけでなく他データと掛け合わせて分析・示唆の獲得が可能となるため、次の授業設計や児童生徒への支援・指導策の検討に繋げることが可能となる。支援を感覚や経験に頼るのではなく、データに基づく仮説のもとで次の施策を検討できるようになり、共通の特徴を把握することで、同様の傾向を持つ他の児童生徒への予防的な支援や、授業設計・学級経営の改善にもつなげることができる。

活用ユースケース

1 教育目標をもとに授業を設計

2 目標に沿って授業を行いScTN質問紙を実施する



3 ScTN質問紙の結果を参照し、授業の成果が出ているか確認する

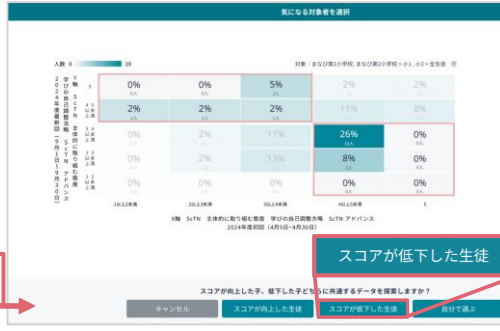
探索画面

全体的なスコア傾向の把握だけでなく今年度最初の結果と最後の結果からスコアが伸びた子、下がった子の把握が可能

スコアが向上した生徒	高いスコアを維持している生徒
スコアが低下した生徒	低いスコアが続いている生徒

対象者の選択に進む

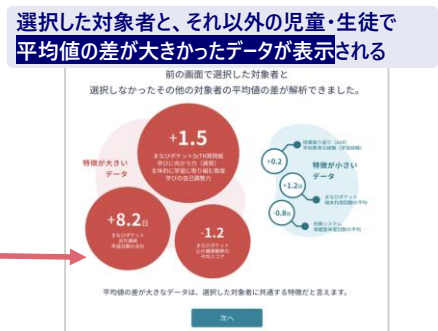
4 気になる傾向の子どもがいた場合は、その子たちに共通する特徴を分析する



スコアが低下した生徒

5 特徴的なデータを見つけて、今後の施策検討に活かす

選択した対象者と、それ以外の児童・生徒で平均値の差が大きかったデータが表示される



効果・活用状況に係るユーザーコメント

- 先生方の「体感（主観）との答え合わせ」や「具体的な声掛けのヒント」として実際の授業改善や声掛けに活かされた

(ユーザーコメント)

- 各児童に対する印象とScTNの結果を比較し、意外な差分が生じるケースも興味深い。データだけ見てもダメで、しっかり生徒を見とった上で『こうだったらもっと伸びそう』と考えるのが大事。
- データで分布図が出てきたのが良かった。4月にScTNを通して『授業をどういう視点で伸ばしていけるか』という研修に使える
- 項目別に生徒の特性がみられる。これをみて『ダメだな』と思うのではなく、『どうやってやるのか』データから先生が考えるのが大事。

改善点に係るユーザーコメント・今後の方針

- 最初と最後の結果の相関だけでなく、2月と3月の比較など、任意のタイミング（例えば11月末と12月半ばなど）での『伸び』が見られるとよい。
- 教科や実施日で比較ができるようになるといい。小学校も教科担任制が多くなると、先生も自分の教科をみたくなると思う。
- 各項目がどの設問にリンクしているかわかりやすいとありがたい。選択肢ごとに色の濃淡が薄いので、より視覚的に違いが分かりやすいと良い
- スコアが低い項目を改善する手立てをAIに相談できると手間が省ける。

【今後の方針】

- ScTN質問紙の教科や単元との紐付け・任意実施日と紐付けた結果推移の確認など、実際の授業改善により活かしやすい形でデータを取得し、ダッシュボード上に可視化させていく。さらなる活用に向けては、誰でもScTN質問紙の質問項目を理解しながら結果を見て、次のアクションに移すための示唆や提案を行う。

(6) 効果検証結果 (ユースケース別) _学校・学級経営状況を振り返り、施策を考える

「特徴分析」機能の活用により、客観的に学校・学級の状況を把握できる点を評価する声が挙がっており、データの蓄積を進めることで、より有効な示唆を提示し得ると考えられます

課題 会議や指導の場で客観的なデータがなく、感覚ベースで話し合いが進むため、具体的な解決策に結びつきにくい。「ICT利用時間が長い」「欠席が多い」という事実だけを提示されても、「それがどう影響しているのか」が分からず、教員の具体的なネクストアクション（声掛けや指導）に繋がらない課題があった。

解決策 単一データの事実だけでなく複数データを掛け合わせ示唆をわかりやすく提示することで、教員の主観はもちろん、さらに客観的なデータをもとに様々な角度から議論を深めることができる。バイアスをなくして学校全体や自治体全体の施策検討、生徒支援や指導が可能となる。

活用ユースケース

1 年度はじめや学期末など、一定の期間で自治体・学校・クラスの傾向や特徴を把握する

学校

うちの学校の子供は他の学校と比べてどんな特徴があるんだろう？学校目標と照らし合わせて確認しよう

児童生徒

学校生活に少し課題があるまなび君の傾向や強みを知りたいな

クラス

いつも授業に積極的な4年2組の子供達は他のクラスと何が違うんだろう

特徴を分析したい特定の学校・クラス児童生徒を選ぶ※複数選択可能



2 様々なデータから特徴や傾向を把握する

選択した対象者と、それ以外の児童・生徒を比較して、特に平均値の差が大きかったデータが表示される



3 施策や生徒指導などに活かす

うちの学校の子供は他の学校よりも端末持ち帰り学習が進んでいる

まなび君は他の子と比べると自己受容感が低い自信をつける声掛けをしよう



効果・活用状況に係るユーザーコメント

- 「特徴分析」は教員の主観や経験則をもとにした児童生徒の理解を、データに基づく客観的な視点へと引き上げるツールとして有効という声があった。特に「学校平均」や「自治体全体」と比較でき、客観的な立ち位置が把握できる点が現場から評価された。

(ユーザーコメント)

- 自治体全体と比較でき、その生徒の鹿児島市の中での位置づけが分かると大きい。『市の平均よりは上にいたい』とか、生徒のやる気が出る。
- レポートを見て、気になることがあったらデータを探索して詳しく見ていきたいと思います。データを見ながら根拠を持って、エビデンスに基づいて子供のことを話すことができる

改善点に係るユーザーコメント・今後の方針

- 探索機能は最近知りましたが、面白いですね。見やすいと思うんですが、『これを見て何をすればいいのだろう』と思った。僕たちが追えない膨大なデータが出ているので有効活用したい。

【今後の方針】事実をわかりやすく提示するだけでなく、その結果から読み取れる示唆や次のアクション提案までできることを目指す。特に、今後さらにデータが蓄積されれば、児童生徒の特性や傾向をもとに、より有効な示唆を提示できる想定。

(7) 今年度実証研究の総括・今後の展望

今年度実証では情報の集約やアクションに繋がるような示唆出しを行ったことで、データの効果的なユースケース創出に繋がりました。今後は、より具体的な示唆の提示や、児童生徒へのデータ還元によりさらなる教育データの利活用促進を図ることが求められます

1. 今年度実証研究の総括

- 教育委員会・学校管理者・教員それぞれの役割でのダッシュボードの効果的な活用ユースケースは見えてきた。
- 今後は生成AIの活用による具体的な示唆の提示による教育の質向上と、児童生徒へのデータ還元を目指す。

2. 今年度の実証成果

① バラバラなデータの集約による「情報収集負荷の削減」

これまで複数のシステムや教員の頭の中に点在していた情報をダッシュボードに一元化することで、朝の確認や面談前成績評価時などにおける教員の情報収集にかかる時間と負荷を削減することに貢献した。

② 事実の分かりやすい提示

生徒ピックアップや探索画面などで、教員の主観や見取りだけに頼っていた児童生徒の理解を補完する客観的な事実を分かりやすく可視化した。これにより、データに基づいた事実をすぐに把握し行動に移すことができるだけでなく、会議が「感覚的な意見交換」から「科学的な議論」へとアップデートされた。

③ 示唆の提示

可視化された事実に対して「AIレポート」が要因や対応策（示唆）を提示する機能を検証した。

現場からは「管理職と教員の対話のきっかけになる」「ベースをもとに通知表のコメントを考えることができる」などの評価を得た。

次の具体的なアクションに繋げるために生成AIを活用したデータに対する示唆や提案の提示は現場から求められている。

④ 児童生徒へのデータ還元

今回は児童生徒の学びの伴走者である教育現場の大人を支援するダッシュボードを検証した。

今後はデータを学びの主体者である児童生徒に還元していくことが求められている。

Appendix_鹿児島市_校務支援システムからの連携項目の表示

■ 校務支援システム等からの連携項目と、学習状況に係る項目を併せて確認でき、教職員個人でもレイアウトのカスタマイズが可能

ライフ・ログ

※本画面には生成AIを活用しています。表示される情報には不正確な内容が含まれる可能性がありますので、正確な情報が必要な場合はご自身で事実確認を行うようお願いいたします。

スタディ・ログ

教師による気づきや日常的な記録も表示（校務支援システムから）

最終アクセス日時 02/05 11:06

まなびポケット AIレポート (β版) 02/05 (木) 10:20生成 まなびポケットのみ2週間、生徒に注目

SCTNでは「探究の学び」「個別の学び」「協同の学び」の評価が比較的高く、学びの実感が得られている傾向がみられます。一方で欠席（欠席10、遅刻0、早退0、合計10）が多い生徒や、心の健康観察で「あめ」が記録された生徒があり、出欠・心身・アプリ利用に差があることがわかります。

レポートの続きを確認

今日の心の健康観察一覧

2月5日 (木)

利用日	コメント
02/03	お腹と、はなみずがです
02/04	心も元気が!

evanix 保健室利用状況

利用日	利用生徒名	種類	内容	対応
02/04		けが	打撲	冷却
02/02 07:40		病気	急性腹痛	保健室で経過観察
02/02		けが	打撲	冷却

AAR 振り返り状況

各教科直近5回

※期間内の回答の平均

0% 25% 50% 75% 100%

算数/数学 理解 5
総合的な... 理解 4
その他 理解 3
理解 2
理解 1
未回答

欠席数等超過

直近30日間 (生徒の欠席数等3日以上)

欠席	遅刻	早退	合計
20	0	0	20

evanix 単元テスト実施状況

教科	テスト名	実施日	平均点	未実施数
算数	2けたをかけるかけ算	2/02	72	1人
理科	電気の通り道	2/02	96	1人
国語	たしかめよう	12/22	142	1人
国語	三年とうげ	12/19	162	1人
まとめ		12/19	68	1人
		12/19	60	0人

生徒アプリ起動回数

直近30日間

0 5 10 15 20 25 30 35

navima
ロイノート・スク...
MEXCBT連携アプリ
EEVideo公立高校入試...
NHK for School

evanix 日常所見

カテゴリ	コメント	記入者
02/02	その他 朝、兄と一緒に車に乗って学校の前まで来ることができた...	
01/29	その他 10時からパソコンルームで徳留先生と母と本人とでカウ...	
01/21	その他 兄の迎いで父親に会うことができた。本人は、4年生の2...	
01/16	登下校 来年度に向けてなるべく自分一人で登校しきれるように、...	
01/14	その他 母親から1/8のカウンセリングについて話が聞けて、カウ...	
01/14	その他 父親から学校に連絡があり、仕事で電話に出れずけななお...	

SCTN 学校教育の経験

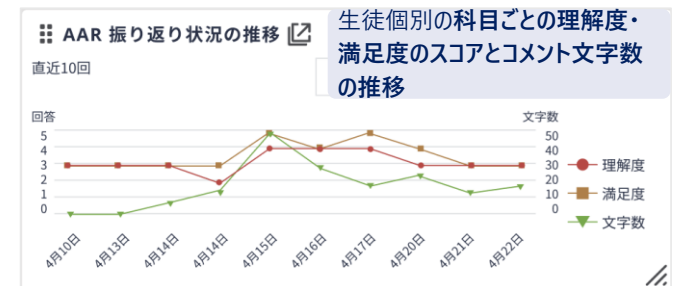
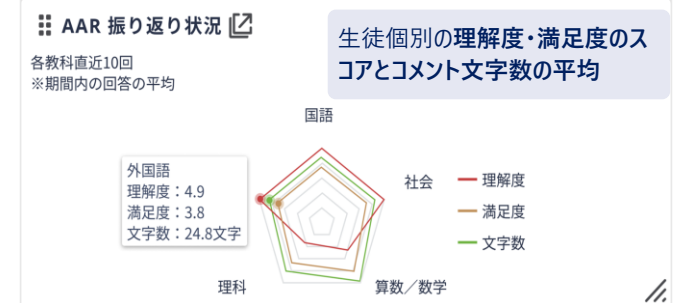
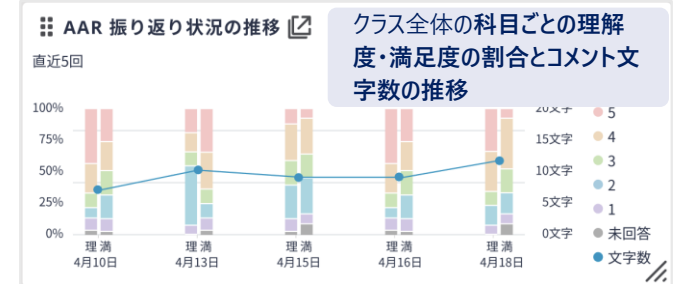
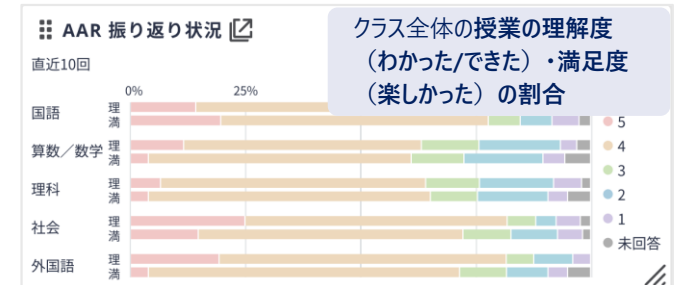
今年度最新

本物の学び 3.8
探究の学び 4.0
個別の学び 4.1
協同の学び 4.0
民主的な学校生活 3.5

Appendix_鹿児島市_AAR授業振り返り入力画面（児童生徒時間割）、教職員向けカード

■ 児童生徒向け時間割（AAR授業振り返り入力）画面

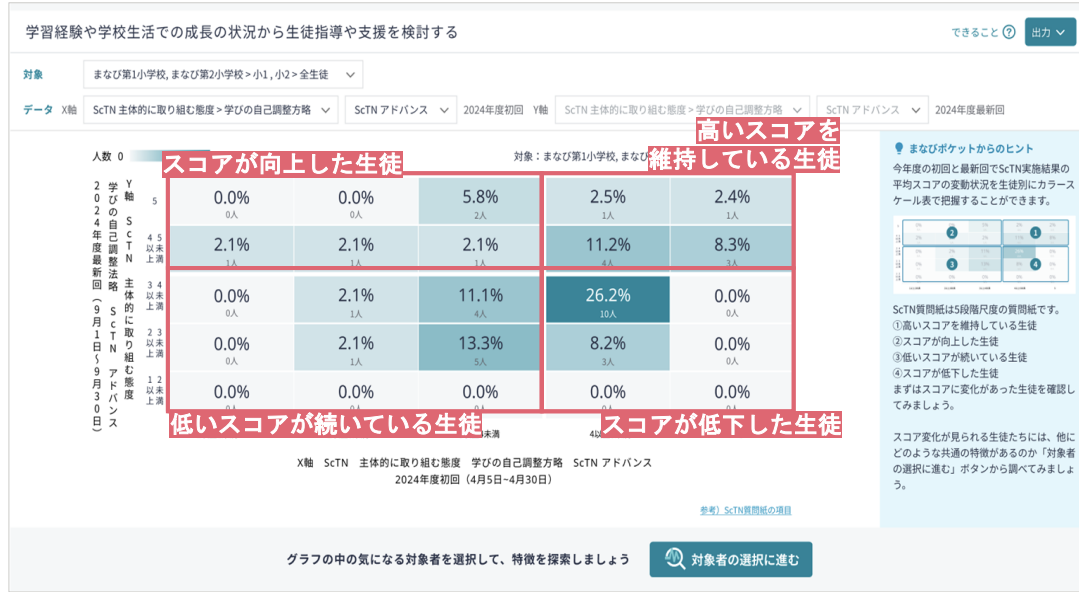
■ 教職員向けカード



Appendix_鹿児島市_探索画面 (ScTN質問紙結果分析・特徴分析・相関マップ)

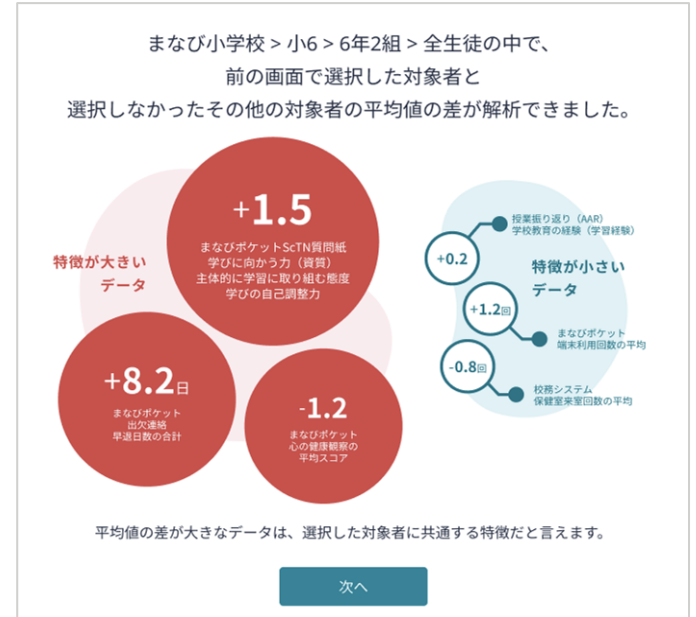
■ 探索画面 (サンプル画面は、ScTN質問紙結果を表示)

: 2軸で児童生徒の傾向や分布を確認 (サンプルはScTN質問紙のスコアの変化)

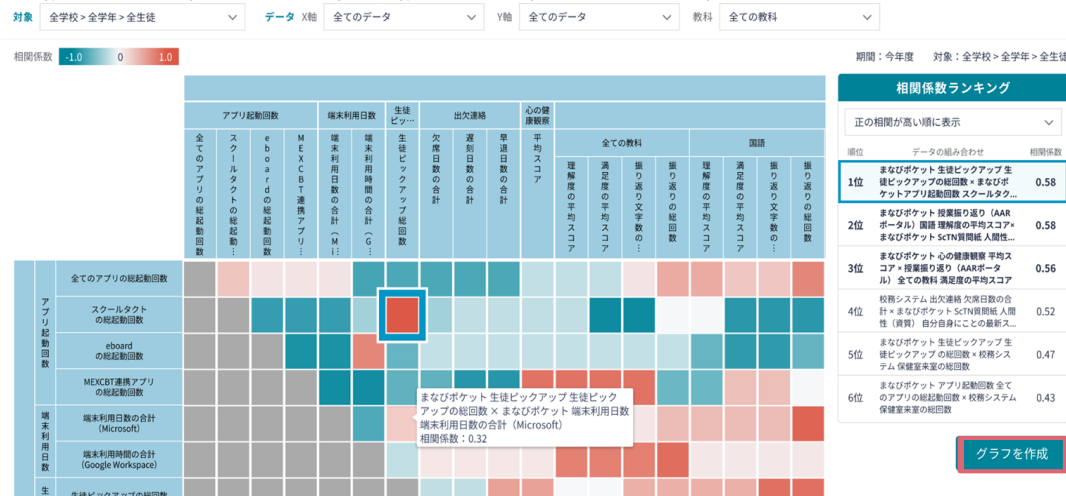


■ 特徴分析画面

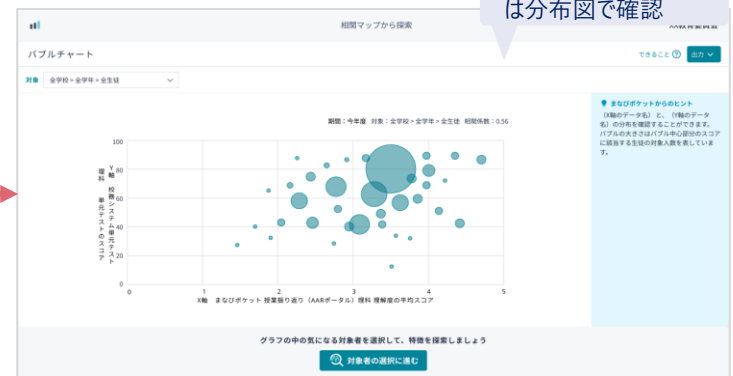
: 選択した児童生徒 (群) の特徴を、平均値との差分等から把握



■ 相関マップ: 複数データの中で、相関の高い組み合わせを可視化



気になる組み合わせは分布図で確認



Appendix_鹿児島市_AIレポート

■ AIレポート：分析元データを選択の上、目的に応じたレポートを出力可能

まなびポケットAIレポート (β版)

カード まなびポケット・校務・学習系 (所見有) 期間 今年度 プロンプト 生徒保護者面談

目的に応じて選択

02/05 (木) 13:57生成 まなびポケット・校務・学習系 (所見有) ,今年度,生徒保護者面談

出欠情報、心の健康観察、単元テストの得点推移、AAR振り返り状況、生徒アプリ起動回数、ScTN学校教育の成果を照らし合わせると、体調に関する欠席・遅刻が複数回記録され、算数の得点に低めの記録がある一方で授業内振り返り高い日もあることが示唆されます。学校生活の充実感が低い自己評価が見られる点も注目できます。

■データから見る生徒の特徴

強み：AAR振り返り状況では2026-01-27に本人_理解度4・本人_満足度5と高めの自己評価があり、授業での手応えを感じる場面があることがうかがえます。また、単元テストの国語・社会で良い得点を示した回もあり、多面的な力がある可能性があります。

注目点：出欠情報では体調に関する欠席・遅刻が複数回あり、単元テストの得点推移では算数の得点が低めに推移している傾向がみられます。さらに、ScTN 学校教育の成果の「学校生活の充実感」が1でクラス平均より低い点も気になる点として捉えることもできます。

■生徒・保護者向けのフィードバック案

もし生徒・保護者へフィードバックするならば以下がおすすめです。

生徒向け

伝えること (案)

「授業での振り返りで分かったことや楽しかったことがあって良かったね。」

理由：AAR振り返り状況で理解度・満足度が高い記録があるため、学びの手応えを肯定できます。

「算数の小テストでばらつきがあるように見えるので、どの部分がつまづきやすいか一緒に確認できるとよいかもかもしれません。」

理由：単元テストの得点推移に変動が見られるため

確認・質問事項 (案)

「授業のどの場面が分かりやすかったか、逆にもう」

理由：本人の学びの気づきを深めるためです。

保護者向け

伝えること (案)

「出欠情報に体調関連の欠席や早退が複数回見受け」

理由：出欠情報と保健室利用状況が一部一致してい

「ScTNで学校生活の充実感が低めの自己評価でし

理由：学校生活の充実感の得点がクラス平均より低

確認・質問事項 (案)

「家庭での体調の変化や登校しづらい日について、

理由：出欠情報と一致する視点から確認を進めやす

伝えること (案)

「出欠情報に体調関連の欠席や早退が複数回見受けられますので、学校での様子を共有させてください。」

理由：出欠情報と保健室利用状況が一部一致しているため、登校状況の共有が今後の対応につながります。

「ScTNで学校生活の充実感が低めの自己評価でしたので、家庭での様子も伺えれば助かります。」

理由：学校生活の充実感の得点がクラス平均より低いため、家庭との連携で見守りがしやすくなります。

確認・質問事項 (案)

「家庭での体調の変化や登校しづらい日について、気づかれていることはありますか？」

理由：出欠情報と一致する視点から確認を進めやすくなるためです。

■アクションのヒント

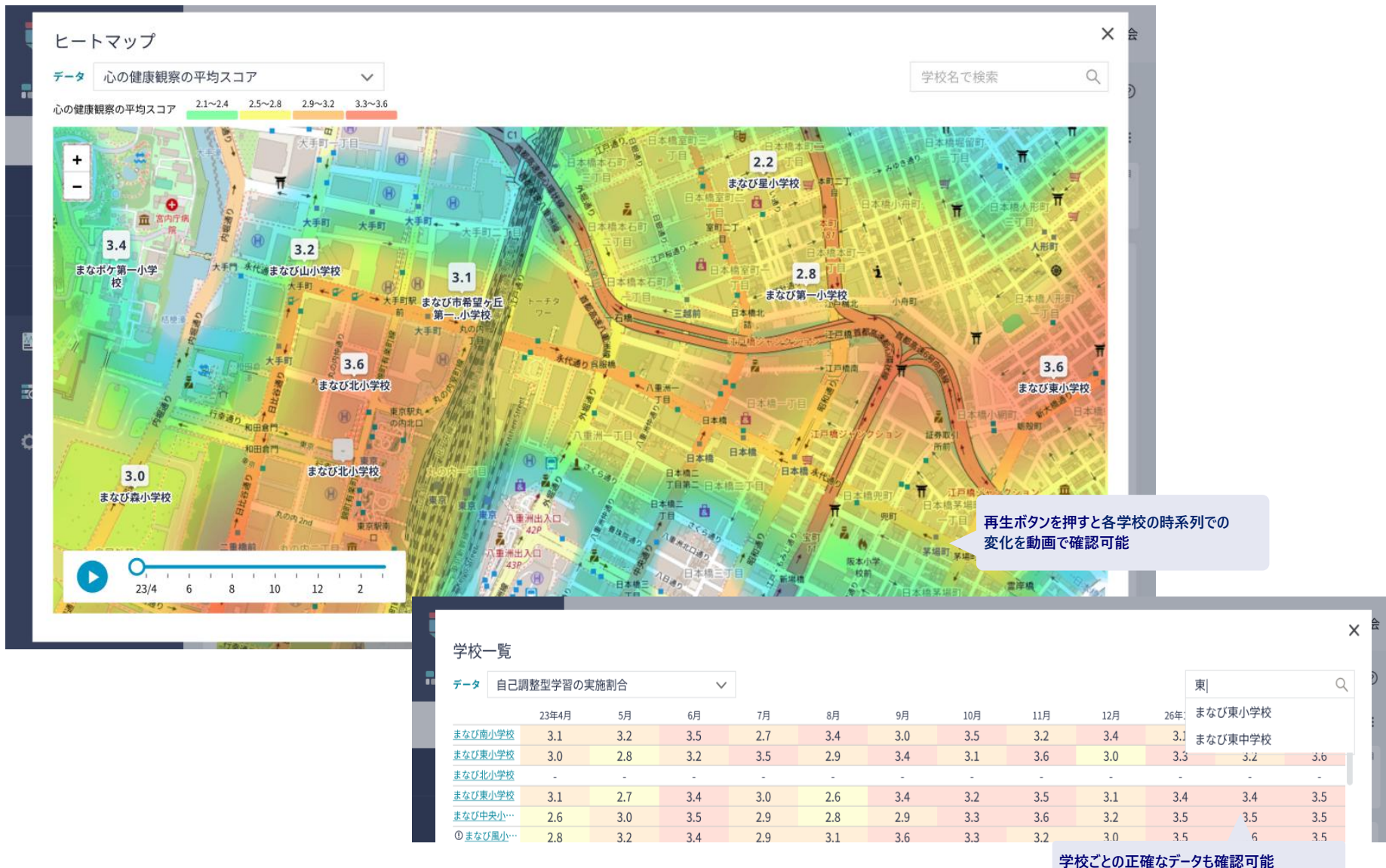
短期的なアクションとしては、出欠情報や単元テストの直近記録を参照し、算数のどの分野で得点が低いかを具体的に把握することが考えられます。長期的なアクションとしては、AAR振り返り状況の良い場面を手がかりに、授業内で成功体験を増やす仕掛けや生徒アプリ起動回数の差を踏まえた学習機会の工夫を検討することが一案と考えられます。

■AIからヒトコト

いつもおつかれさまです。小さな観察の積み重ねが生徒さんの支えになりますね。休息と振り返りも大切にできるとよいですね。

Appendix_鹿児島市_教育委員会での活用画面（ヒートマップ）

■ ヒートマップ：地域全体の状況を可視化（サンプル画面は、心の健康観察の平均スコアのヒートマップ）



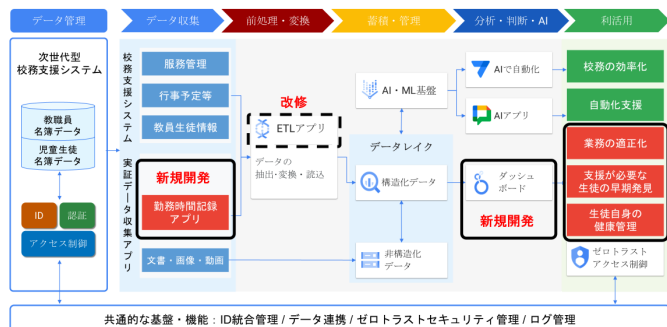
3. 山形県_実証研究報告

実証研究の概要_山形県

山形県では、「勤務時間データの分析を通じた働き方改革の推進」を目的に、前年度より整備しているデータ連携基盤を活用し、勤務時間データ収集アプリ及び業務実態把握のためのダッシュボードの開発と現場への導入・運用定着に取り組みました

構築システム概要

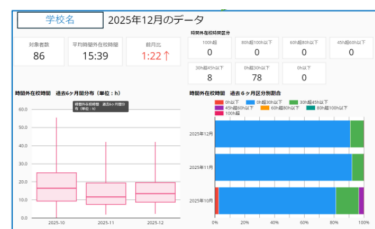
- 本実証では、本県が利用する汎用クラウド（Google Cloud）上に整備した校務支援システム（サービス管理機能を含む）と、データ連携基盤との連携によるシステム設計・実装を基本とした
- 上記連携に加え、以下のアプリ・ダッシュボード等を構築した
 - 校務支援システム（サービス管理・行事予定・教員情報）から必要なデータをデータ連携基盤に収集・蓄積するETL機能の開発
 - 勤務時間データ収集アプリ（モバイル対応Webアプリ）の開発
 - 業務実態を把握するためのダッシュボードの開発



▲ システム構成



▲ 勤務時間データ収集アプリ画面



▲ ダッシュボード画面

活用を促すシステム面/運用面の工夫

教員の
過重労働を
早期発見
するための
表示項目
設計

検討課題・目的

- 管理職が管理・把握する自校教職員数は多いため、**過重労働の早期発見に繋がる仕組みを整える必要があった。**

工夫内容

- 月・週ごとの学校全体の勤務状況を把握できるように、**平均時間外在校時間、前月比、時間外在校時間区分ごとの人数等を項目立てて可視化した。**
- 教員間比較グラフを表示し、**教員間の業務負荷の偏りを可視化。**
- 月別時間外在校時間が80時間超の場合、**ダッシュボード上に視覚的フラグを自動表示し、管理職が速やかに対応できるようにした。**

勤怠アプリの
アクセス
簡略化

検討課題・目的

- 教職員が、日常的に簡単にアクセスできる環境を整備する必要があった。

工夫内容

- 教育委員会側で全校務用端末に勤怠アプリのURLをブラウザのブックマークとして自動配信し、教員が「出退勤申告アプリ」にワンクリックでアクセスできる環境を整備した。
- 教員用iPadにショートカットアイコンを作成し、ホーム画面から直接起動できるよう案内を実施した。
- 個人のスマートフォンからもアクセス可能とし、出退勤打刻の利便性を確保した。

検討課題・目的

- 働き方改革を進める中で、**教員に負荷をかけずに自身の勤務実態を把握できる仕組みが必要だった。**

工夫内容

- 出退勤申告アプリのトップ画面に「**今月の勤務時間外の累計**」を表示し、教員が出退勤打刻のたびに自身の当月超過勤務状況を自然に確認できるようにした。
- ヘルプデスクサイトを公開し、**マニュアル・問い合わせ窓口を集約してブックマークに設置した。**

(1) 事業概要

山形県では、「勤務時間データの分析を通じた働き方改革の推進」を目的に、前年度より整備しているデータ連携基盤を活用し、勤務時間データ収集アプリ及び業務実態把握のためのダッシュボードの開発に取り組みました

背景・目的

■ 背景・課題

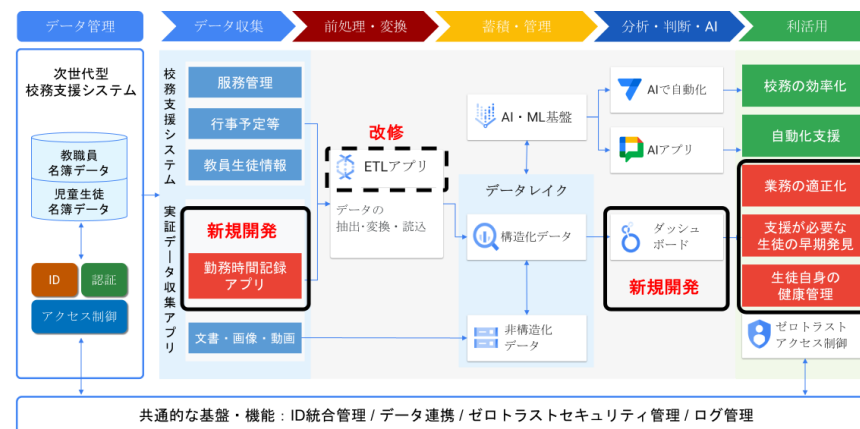
- 従前、授業でのICT活用に比べ、校務でのICT活用の遅れや学校間・教員間の取組格差が課題となっていた。
またシステム面でも、各種データは蓄積されているものの、境界分離型ネットワークによりデータ連携ができない状況にあった。
- そうした状況の中、第7次山形県教育振興計画では「教育DXを実現する」アクションのもと、指標(36)「教育データの可視化のシステムを活用した県立学校の割合」の目標達成を目指している。また令和6年度より「県立高等学校教育DX化促進事業」にて、校務効率化支援システム等の開発・運用を進めている。
- 令和7年1月からは、汎用クラウドツールをベースに、順次校内の各種申請等を電子化（デジタル化）し、申請内容を各種システムに連携することで、学校日誌や出勤簿等の自動作成を実現している

■ 令和7年度実証の目的

- 以上の課題・背景を踏まえ、令和7年度の当実証研究では、「勤務時間データの分析を通じた働き方改革の推進」を目的として教育データ利活用に取り組むこととした。

構築システム概要

- 本実証では、令和6年度より推進している「県立高等学校教育DX化促進事業」にて、山形県が利用する汎用クラウド（Google Cloud）上に整備した校務支援システム（サービス管理機能を含む）と、データ連携基盤との連携によるシステム設計・実装を基本とする。
- 上記連携に加え、以下のアプリ・ダッシュボード等を構築する
 - 校務支援システム（サービス管理・行事予定・教員情報）から必要なデータをデータ連携基盤に収集・蓄積するETL機能の開発
 - 勤務時間データ収集アプリ（モバイル対応Webアプリ）の開発
 - 業務実態を把握するためのダッシュボードの開発



(1) 事業概要 実施体制・スケジュール

今年度の実証に際しては、県立特別支援学校18校をパイロット校と位置づけ、日々の出退勤入力から勤務データ提出までの一連の取り組みと、効果検証を実施しました

	参画者	主な役割
実施体制	山形県教育局高校教育課 教育DX推進室 教職員課	<ul style="list-style-type: none"> ・事業全体の統括・推進 ・教育委員会ダッシュボードの運用 ・効果検証の実施（アンケート・ヒアリング）
	Ddrive株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間データ収集アプリの設計・開発・運用 ・業務実態把握ダッシュボードの設計・開発・運用
	パイロット校 県立特別支援学校 18校	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間データ収集アプリの設計・開発・運用 ・業務実態把握ダッシュボードの設計・開発・運用



(2) 利活用対象データ項目

利活用対象データ項目、表示・集計方法については、教育DX推進室主導のもと、局内関係課や参画事業者との協議を経て決定されました

項目分類	項目名	データ型	取得頻度	連携元	表示先ダッシュボード・表示単位		
					管理職	教職員	教委
勤怠情報	出勤時刻	時刻型	日次（打刻時）	勤怠アプリ		○	
勤怠情報	退勤時刻	時刻型	日次（打刻時）	勤怠アプリ		○	
勤怠情報	時間外在校時間	数値型	日次（自動算出）	勤怠アプリ		○	
勤怠情報	時間外休憩時間	数値型	日次（入力時）	勤怠アプリ		○	
勤怠情報	時間外業務種別	選択型	日次（退勤時）	勤怠アプリ		○	
勤怠情報	出勤区分	選択型	日次	校務支援システム		○	
教職員属性	職名・役職	文字列型	年度初・異動時	教職員マスタ		○	
教職員属性	所属学校	文字列型	年度初・異動時	学校マスタ		○	
月次集計	月締め完了状況	ブール型	月次	校務支援システム		○	
アラート	80h超フラグ	ブール型	月次（自動）	BigQuery		○	

● データ項目定義を進める上での工夫・留意事項

- 教育委員会（教育DX推進室）が主導し、局内関係課、Ddrive社と協議して項目を定義した。
- 「働き方改革」の観点から、時間外在校時間の把握と業務種別の可視化に重点を置いた。
- 既存の校務支援システム（服務管理）のデータ項目を参考に、勤怠アプリで追加取得すべき項目を精査した。
- 時間外業務種別は、文科省の勤務実態調査の分類を参考に8区分（授業準備・教材研究、学習指導、生徒指導、校務分掌、部活動等、保護者・地域対応、会議・研修等、その他）を設定した。
- 個人情報保護の観点から、ダッシュボード・データのアクセス権限を教職員/管理職/教育委員会で分離設計した。
- モック画面でのレビューを複数回実施し、局内関係課の意見を反映して項目を調整した。

(3) 可視化システム・ツールにおける工夫 (1/2)

役割に応じてアクセス可能範囲をコントロールしており、管理職は自校教職員の勤務状況を把握することができ、把握した内容をシステム上で教育委員会へ報告可能となっています

タイトル	工夫内容	画面イメージ
<p>役割に応じた、ダッシュボードのアクセス範囲制御</p>	<p>(検討課題・目的) 個人情報保護の観点から、教職員は自身のデータのみ、管理職は自校のみ、教委は全校を閲覧可能等、それぞれ必要なデータを適切な範囲で閲覧できる制御が必要だった。</p> <p>(工夫内容) Googleアカウントに所属・役職情報を紐づけ、役割ごとのグループにダッシュボードの閲覧権限を設定した。また、Looker Studioのデータソースフィルタリングでアカウントの役割に応じて自動的にアクセス範囲を制御できるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員向け：個人日別/週別/月別データ、グラフ表示 管理職向け：自校教職員の比較レポート、月締め状況 教委向け：全校横断集計、学校別/職名別分析、月締め管理等 	<p>▼ダッシュボード全体構成</p> <p>教育委員会向けダッシュボード</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学校・各学校平均 時間外在時間レポート 月別学校集計レポート 月別教職員データレポート 職名別月別グラフレポート 職名別月別集計レポート 月締め完了状況レポート <p>共有ダッシュボード (教育委員会・管理職・教職員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日別データ一覧レポート 日別個人データレポート 週別データ一覧レポート 週別個人データレポート 月累計データ一覧レポート 月累計個人データレポート <p>管理職・教育委員会向けダッシュボード</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員間比較① 日別推移レポート 教員間比較① 週別推移レポート 教員間比較② 平均時間レポート 教員間比較② 合計時間レポート
<p>労務管理報告の自動化</p>	<p>(検討課題・目的) 管理職から教育委員会への報告業務の効率化をする必要があった。</p> <p>(工夫内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 月締め処理をシステム化し、管理職の「月締め」操作で教育委員会への報告が自動完了できるようにし、従来のExcel作成・メール報告が不要な運用を整備した。 	<p>▼管理職 (教頭) の操作画面</p> <p>「編集」をクリック</p> <p>教員を選択</p> <p>入力されていないセルを抽出すると確認がしやすいです</p> <p>休暇等に終日の記載があれば勤務時間の入力が必要となります</p> <p>「月」を選択</p> <p>「月締め」を選択</p> <p>「一括」で該当月の全教員をチェック</p>

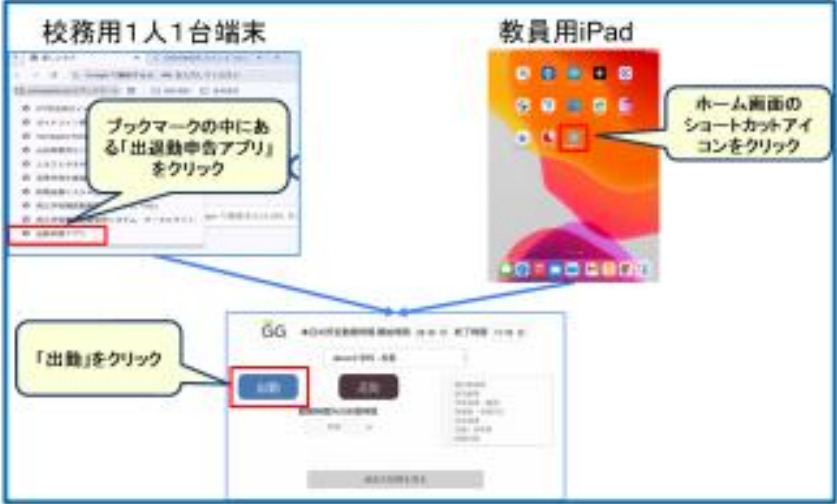
(3) 可視化システム・ツールにおける工夫 (2/2)

管理職が、自校教職員の過重労働状況を早期発見できるように、平均時間外在校時間等の人数を分かりやすく可視化しています

タイトル	工夫内容	画面イメージ																
<p>教員の過重労働を早期発見するための表示項目設計</p>	<p>(検討課題・目的) 管理職による過重労働の早期発見を支援する必要があった。</p> <p>(工夫内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 月・週ごとに、平均時間外在校時間、前月比、時間外在校時間区分ごとの人数等をわかりやすく可視化し、学校全体の勤務状況を把握できるようにした。 教員間の比較をグラフで可視化し、教員間の業務負荷の偏りがわかるようにした。 月別時間外在校時間が80時間超の場合、ダッシュボード上に視覚的フラグを自動表示し、管理職が速やかに対応できるようにした。 	<p>▼管理職向けダッシュボード画面（教職員の勤務状況）</p> <p>学校名: 2025年12月のデータ</p> <p>対象者数: 86 平均時間外在校時間: 15:39 前月比: 1:22 ↑</p> <p>時間外在校時間区分</p> <table border="1"> <tr> <td>100h超</td> <td>80h超100h以下</td> <td>60h超80h以下</td> <td>40h超60h以下</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>30h超40h以下</td> <td>0h超30h以下</td> <td>0h以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>78</td> <td>0</td> <td></td> </tr> </table> <p>時間外在校時間 過去6ヶ月間分布 (単位: h)</p> <p>時間外在校時間 過去6ヶ月区分別割合</p> <p>2025年12月 2025年11月 2025年10月</p>	100h超	80h超100h以下	60h超80h以下	40h超60h以下	0	0	0	0	30h超40h以下	0h超30h以下	0h以下		8	78	0	
100h超	80h超100h以下	60h超80h以下	40h超60h以下															
0	0	0	0															
30h超40h以下	0h超30h以下	0h以下																
8	78	0																


(4) 現場活用促進のための施策・工夫 (1/2)

教育委員会側で勤怠アプリURLのブックマークを自動配信することで、教職員の勤怠アプリへのアクセス負担の軽減を図りました

時期	タイトル	工夫内容
稼働直前	勤怠アプリのアクセス簡略化	<p>(検討課題・目的) 教職員がアプリのURLを意識せず、日常的に簡単にアクセスできる環境を整備する必要があった。</p> <p>(工夫内容)</p> <ul style="list-style-type: none">MDM (モバイルデバイス管理) を活用し、教育委員会側で全校務用端末に勤怠アプリのURLをブラウザのブックマークとして自動配信し、教員が意識せずともブラウザのブックマーク一覧から「出退勤申告アプリ」にワンクリックでアクセス可能にした。教員用iPad向けにショートカットアイコンの作成方法を周知し、ホーム画面から直接起動できるよう案内を実施した。その他モバイル端末からもアクセス可能とし、出退勤打刻の利便性を確保した。  <p>The diagram illustrates the simplified access process. On the left, a 'School Office 1 person 1 terminal' (校務用1人1台端末) shows a browser's bookmark list with '出退勤申告アプリ' (Attendance Declaration App) highlighted. A callout box says 'ブックマークの中にある「出退勤申告アプリ」をクリック' (Click the 'Attendance Declaration App' in the bookmarks). On the right, an 'Teacher iPad' (教員用iPad) home screen shows a red shortcut icon. A callout box says 'ホーム画面のショートカットアイコンをクリック' (Click the shortcut icon on the home screen). At the bottom, the app's main screen is shown with a red box around the '出勤' (Attendance) button and a callout box saying '「出勤」をクリック' (Click 'Attendance').</p>

(4) 現場活用促進のための施策・工夫 (2/2)

教職員が日常的に自身の勤務実態を意識できるよう、勤怠アプリに「今月の勤務時間外の累計」を表示しています

時期	タイトル	工夫内容
運用中	アプリ画面での超過勤務時間表示	<p>(検討課題・目的)</p> <p>教職員が日常的にダッシュボードを見に行く手間を軽減し、自身の勤務実態を自然に意識できる仕組みが必要だった。</p> <p>(工夫内容)</p> <ul style="list-style-type: none">出退勤申告アプリのトップ画面に「今月の勤務時間外の累計」を表示し、教員が出退勤打刻のたびに自身の当月超過勤務状況を自然に確認できるようにした。ヘルプデスクサイトを公開し、マニュアル・問い合わせ窓口を集約してブックマークに設置した。  <p>The screenshot shows the GG app interface. At the top, it displays 'GG' and '本日の所定勤務時間 開始時間 00:00 終了時間 00:00'. Below this is a dropdown menu for 'サンプル3高校 - 校長'. A red box highlights the text '今月の勤務時間外の累計: 00:00'. There are buttons for '出勤' (blue) and '退勤' (dark red). Below these are a toggle for '在校あり' and a section for '勤務時間外の休憩時間' with input fields for '時間' and '分'. On the right, there is a list of activities with checkboxes: '授業準備・教員研究', '学級管理(講習等)', '生徒指導', '校務分掌', '部活動等', '保護者・地域対応', '会議・研修等', and 'その他'. At the bottom, there is a button '過去の記録を見る'.</p>

(5) 現場での活用状況

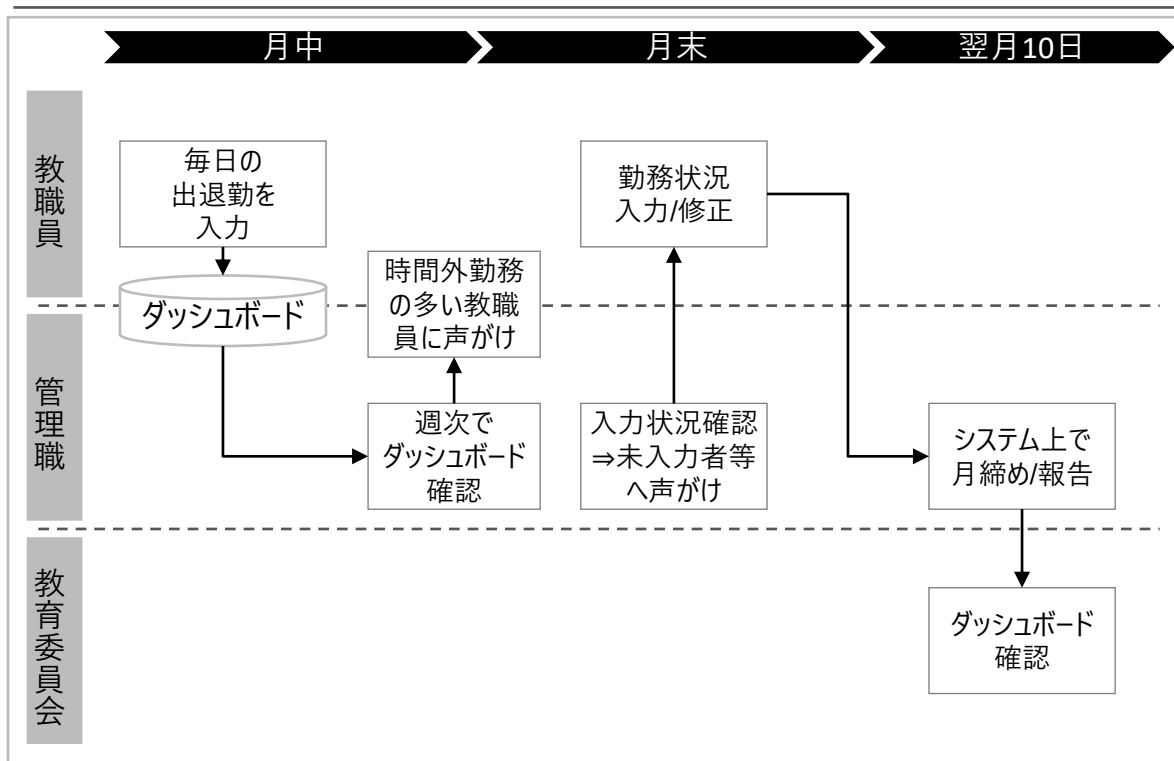
導入校では、教職員が日々勤務データをアプリ入力し、管理職が週次で更新されるダッシュボードを確認、月末にも入力状況を確認の上、月締めを行う運用が定着してきています

役割別の活用状況は以下の通りである。

- ・ 教職員：毎日出退勤をアプリで打刻する。
- ・ 管理職：ダッシュボードで週次で勤務状況を確認し、校務支援システムを使って月次で月締めを実施する。
- ・ 教育委員会：ダッシュボードで全校データを一括して把握する。

※従来は特別支援学校ではスタンドアロン端末1台での打刻→USBメモリでデータ移動→エクセル集計→メール報告という非効率な運用であった。

業務フロー



検知課題・リスク、それらへの対応

【検知課題】

- ①ダッシュボードは自ら見に行く必要があり、手間と感じる教員がいる
→アプリ画面上に累計時間を表示して対応
- ②ダッシュボード更新が毎週月曜のため、リアルタイムの状況は確認不可
→ETLバッチ頻度の見直しを検討中
- ③打刻忘れ・誤入力の発生
→過去データ修正機能で当月内は自身で修正可能。
月締め前に管理職が確認

【今後の対応】

- ・高校での運用開始に向けた準備（校務支援システムとの連携調整）
- ・ダッシュボード活用促進の研修・好事例の共有

(6) 効果検証結果

パイロット校の教職員を対象に効果検証を実施し、ダッシュボードの使いやすさ、得られた気づきの有無や、今後の超過勤務削減効果への見込みも含め回答を得ました

アンケート・ヒアリング回答サマリ

考察・得られた示唆

検証観点① ダッシュボード データの 分かりやすさ	Q. ダッシュボードで可視化されたデータは分かりやすかったか 【管理職】(n=24) とてもそう思う+そう思う：95.8% (87.5%+8.3%) あまりそう思わない：4.2% 【本務教員】(n=164) ※利用した教職員数 とてもそう思う+そう思う：85.9% (76.8%+9.1%) あまりそう思わない：14%	<ul style="list-style-type: none"> 管理職・教員ともにデータの分かりやすさは高評価を得ていることから、ダッシュボードによる視覚的な可視化（箱ひげ図、円グラフ、時系列推移）が有効に機能したと考えられる。 一方で、教員の14%は「あまり分かりやすくない」と回答している →PCに慣れていない教員向けに、レポートの表示項目やフィルター操作の簡略化、閲覧ガイドの充実が次年度の改善ポイントと考えられる
検証観点② 超過勤務に 関する気づき	Q. ダッシュボード/アプリで超過勤務状況への気づきはあったか 【管理職】(n=24) 自校全体の課題への気づき 気づきがあった：87.5% →うち21名が具体的アクションに繋がった 【本務教員】(n=526) ※教職員全員 出退勤アプリでの気づき 気づきがあった：43.2% 【本務教員】(n=164) ※利用した教職員数 ダッシュボードでの気づき 気づきがあった：50.6%	<ul style="list-style-type: none"> 管理職の87.5%が気づきを得て、具体的アクションに繋がった点は大きな成果といえる。特に「超過勤務が長い職員への声掛け」（90.5%）が最も多い。 教員のアプリでの気づきは43.2%に留まるが、ダッシュボード利用者では50.6%に上昇。自分のデータなので管理職に比べ気づきは少なくなる傾向はあるが、半数は気づきがあると回答。 →アプリの累計表示に加え、ダッシュボードの積極活用促進が重要
検証観点③ 超過勤務 削減効果 の見込み	Q. 超過勤務の削減効果が今後見込めると思うか 【管理職】(n=24) ダッシュボード活用による削減効果 とてもそう思う+そう思う：58.3% 【本務教員】(n=526) アプリ上での自身の状況表示による削減効果 とてもそう思う+そう思う：46.4% (4.2%+42.2%) あまりそう思わない：45.4% まったくそう思わない：8.2%	<ul style="list-style-type: none"> 管理職は58.3%が削減効果を見込む一方、教員は46.4%と温度差がある。教員の45.4%が「あまりそう思わない」と回答している →「データが可視化されただけでは勤務時間は変わらない」という教員と「変わる」という教員がほぼ半数ずつに分かれている。データに基づく業務改善施策（分担見直し・会議効率化等）と連動することで効果が見込める可能性は高いと考えられ、次年度は管理職主導のPDCAサイクル構築が取組の鍵となる。

(7) 今年度実証研究の総括・今後の展望

今年度実証では、管理職が毎月実施している教育委員会への報告業務の負担が軽減し、データ利活用の有効性が示されました。今後はさらに活用校を拡大し、働き方改革を推進するとともに、多様な生徒への支援・指導の実現に向けた機能を展開していく想定です

1. 運用課題への対応案

- ダッシュボード更新頻度の向上（現在週次で更新しているが、日次更新への移行検討）
- ダッシュボード活用促進のための研修・活用事例集の作成と校内共有
- 入力状況の確認ができる機能や、打刻忘れ防止のためのリマインド通知機能の検討（未入力箇所が即座に把握できるようなマークの表示等）
- 教員がダッシュボードを「見に行く」負担を軽減する仕組み（プッシュ型通知・メール配信等）
- 校務支援システムとの連携（休暇管理や旅行管理等とのシステム連携）

2. 連携対象データ・ダッシュボード仕様のアップデート

- 保健室来室・健康観察データ収集アプリの開発・連携（生徒の健康・心理状態把握ダッシュボード）
- 行事予定データとの連携による繁忙期分析の高度化
- 教員間比較レポートの充実（年代別・教科別・校務分掌別の分析軸追加）

3. 展開対象校の拡大と機能改修

令和8年度は、今年度実証の「勤務時間データの分析を通じた働き方改革の推進」に加え、「客観データの共有による多様化する生徒への的確な支援・指導の実現」にも取り組む想定

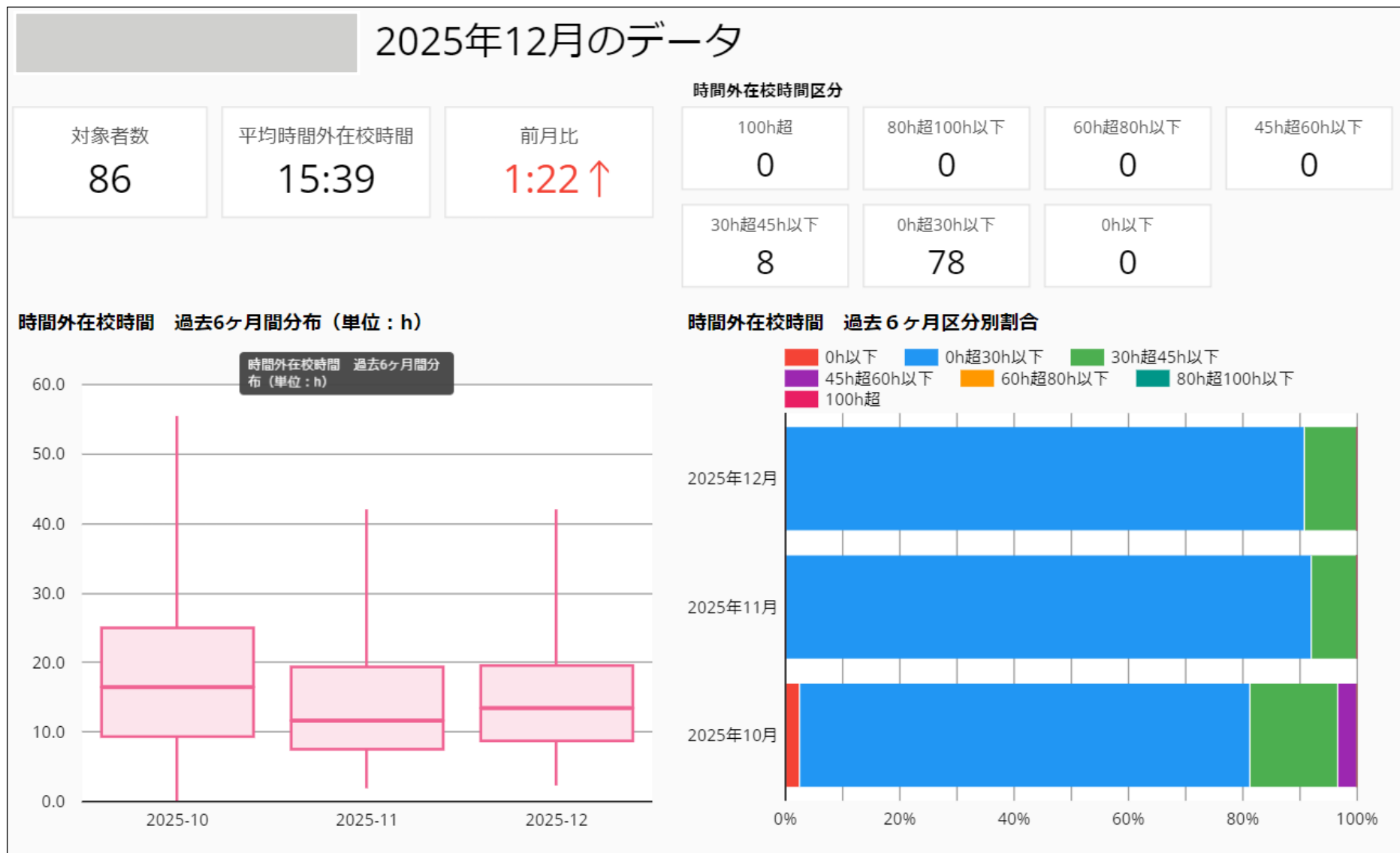
- 働き方改革の推進：県立中学・高校42校で勤務時間記録アプリの全校展開（既存校務支援システムとの連携）
- 多様化する生徒への的確な支援・指導の実現：保健室来室アプリを構築し、普通科高校数校でパイロット運用後、段階的に展開

4. 教育委員会としての総括

- 校務支援システムとの連携により、教育委員会への報告業務の負担が大幅に軽減された。
- 今後は、出勤簿・休暇管理・旅行管理等ともシステム連動し業務のさらなる効率化を図るとともに、行事予定や校務文書の属性データ、教員の働き方に関わる調査等の様々なデータをデータ連携基盤に集約することで、教員の働き方改革を支えるデータ分析の高度化につなげたい。

Appendix_山形県_管理職用 学校全体の勤務状況把握画面

■管理職用_学校全体 勤務状況把握画面



Appendix_山形県_管理職用 データ比較画面

■管理職用_データ比較画面

